

付属統計表
第II部

第33表 年齢階級,求職理由別完全失業者,完全失業率の推移

第33表 年齢階級、求職理由別完全失業者、完全失業率の推移

(単位 万人、%)

年	完全失業者					完全失業率				
	総数	非自発的離職失業者	自発的離職失業者	学卒未就職	その他	総数	非自発的離職失業者	自発的離職失業者	学卒未就職	その他
(年齢計)										
1991年	136	31	55	5	37	2.1	0.5	0.8	0.1	0.6
92	142	32	61	6	36	2.2	0.5	0.9	0.1	0.5
93	166	41	69	7	39	2.5	0.6	1.0	0.1	0.6
94	192	50	78	9	45	2.9	0.8	1.2	0.1	0.7
95	210	55	83	11	50	3.2	0.8	1.2	0.2	0.8
96	225	59	87	13	55	3.4	0.9	1.3	0.2	0.8
97	230	54	95	12	59	3.4	0.8	1.4	0.2	0.9
98	279	85	101	15	68	4.1	1.3	1.5	0.2	1.0
(15～29歳)										
1991年	56	9	25	6	13	3.7	0.6	1.6	0.4	0.9
92	59	8	28	6	13	3.8	0.5	1.8	0.4	0.8
93	69	9	33	6	16	4.4	0.6	2.1	0.4	1.0
94	77	10	36	9	17	4.8	0.6	2.3	0.6	1.1
95	85	13	39	11	18	5.3	0.8	2.4	0.7	1.1
96	93	12	42	12	21	5.7	0.7	2.6	0.7	1.3
97	95	11	45	12	23	5.8	0.7	2.7	0.7	1.4
98	109	18	49	15	24	6.7	1.1	3.0	0.9	1.5
(30～44歳)										
1991年	35	8	16	0	9	1.6	0.4	0.7	0.0	0.4
92	36	6	18	0	9	1.7	0.3	0.8	0.0	0.4
93	41	9	20	0	9	1.9	0.4	0.9	0.0	0.4
94	45	11	21	0	10	2.2	0.5	1.0	0.0	0.5
95	50	11	23	0	12	2.5	0.6	1.2	0.0	0.6
96	50	10	24	0	13	2.6	0.5	1.2	0.0	0.7
97	52	10	26	0	13	2.7	0.5	1.3	0.0	0.7
98	65	17	28	0	16	3.3	0.9	1.4	0.0	0.8
(45～59歳)										
1991年	27	7	11	0	8	1.4	0.4	0.6	0.0	0.4
92	28	8	10	0	8	1.4	0.4	0.5	0.0	0.4
93	33	11	12	0	8	1.6	0.5	0.6	0.0	0.4
94	42	14	15	0	10	1.9	0.6	0.7	0.0	0.5
95	45	16	17	0	10	2.0	0.7	0.8	0.0	0.5
96	49	17	18	0	12	2.2	0.8	0.8	0.0	0.5
97	50	15	20	0	13	2.2	0.7	0.9	0.0	0.6
98	62	25	19	0	14	2.7	1.1	0.8	0.0	0.6
(60歳以上)										
1991年	18	6	4	0	7	2.3	0.8	0.5	0.0	0.9
92	19	9	4	0	7	2.3	1.1	0.5	0.0	0.9
93	23	12	4	0	6	2.8	1.4	0.5	0.0	0.7
94	28	13	5	0	8	3.3	1.5	0.6	0.0	0.9
95	30	16	4	0	9	3.5	1.8	0.5	0.0	1.0
96	34	18	4	0	10	3.9	2.0	0.5	0.0	1.1
97	34	18	4	0	10	3.7	2.0	0.4	0.0	1.1
98	43	23	4	0	14	4.7	2.5	0.4	0.0	1.5

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」より労働省労働経済課試算

第34表 年齢階級別パート・アルバイト労働者数,比率

第34表 年齢階級別パート・アルバイト労働者数、比率

(単位 万人、%)

年	総数	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65歳以上
パート・アルバイト労働者数							
1988年	591	96	83	195	141	59	16
93	795	159	106	204	191	102	33
97	935	219	132	191	232	121	40
98	977	226	145	196	239	131	41
99	1013	223	162	195	248	141	44
パート・アルバイト比率							
1988年	13.4	15.5	8.3	16.1	14.5	12.1	15.4
93	15.6	21.3	9.6	16.5	16.7	15.0	19.3
97	17.6	30.2	10.6	17.2	17.7	16.5	20.5
98	18.4	32.6	11.4	17.9	18.3	17.8	20.4
99	19.3	34.3	12.7	18.1	19.3	18.7	22.0

資料出所 総務庁統計局「労働力調査特別調査」(各年2月)より労働省労働経済課試算

- (注) 1) 在学中の者を含む。
2) 非農林業についてみたもの。

第35表 卒業者の進路別構成比

第35表 卒業者の進路別構成比

(単位 %)

年	大卒					高卒					
	進学	就職	一時的な仕事	無業	その他	大学等進学	専修学校(高等課程)進学	専修学校(一般課程)進学	就職	無業	死亡・不詳
1989年	6.7	79.6	1.0	6.2	6.4	30.7	14.9	14.0	35.6	5.6	0.1
90	6.8	81.0	0.9	5.6	5.7	30.6	15.8	14.0	35.2	5.2	0.1
91	7.0	81.3	0.8	5.2	5.7	31.7	15.6	14.0	34.4	4.9	0.1
92	7.6	79.9	0.9	5.7	5.8	32.7	16.4	13.8	33.1	4.7	0.1
93	8.5	76.2	1.2	7.1	6.9	34.5	16.6	13.9	30.5	5.2	0.1
94	9.5	70.5	1.7	11.3	7.1	36.1	16.6	13.9	27.6	6.4	0.1
95	9.4	67.1	1.9	13.8	7.9	37.6	16.7	13.7	25.6	7.1	0.1
96	9.4	65.9	2.1	15.7	7.0	39.0	16.9	13.0	24.3	7.5	0.1
97	9.1	66.6	2.0	15.2	7.0	40.7	16.8	12.0	23.5	7.6	0.1
98	9.4	65.6	2.2	15.5	7.3	42.5	16.4	11.0	22.7	7.9	0.1

資料出所 文部省「学校基本調査」

- (注) 1) 就職は、就職者と就職進学者の合計。
2) 大卒の無業は、就職も進学もしていないことが明らかな者及び専修学校・各種学校・外国の学校・職業能力開発施設等へ入学した者の合計。
高卒の無業は、大学等進学者、専修学校(高等課程)進学者、専修学校(一般課程)等入学者、就職者のいずれにも該当せず進路が未定である者が明らかな者、及び家事手伝いをしている者、外国の大学等に入学した者の合計。
3) その他は、死亡・不詳と臨床研修医(予定を含む)の合計

第36表 仕事につけない理由(主な理由)

第36表 仕事につけない理由（主な理由）

（単位 %）

項目	男女計				男性				女性			
	年齢計	15～34歳	35～54歳	55歳以上	年齢計	15～34歳	35～54歳	55歳以上	年齢計	15～34歳	35～54歳	55歳以上
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
賃金・給料が希望とあわない	8.0	7.1	10.5	6.5	9.9	7.8	15.2	6.4	5.1	6.3	2.6	6.7
勤務時間・休日などが希望とあわない	6.3	7.8	7.0	0.0	4.1	7.8	4.3	0.0	9.3	9.4	12.8	-
求人年齢と自分の年齢とがあわない	18.8	3.5	25.6	41.9	17.5	3.9	21.7	38.3	19.5	6.3	30.8	60.0
希望する種類の仕事がない	20.1	28.4	10.5	14.5	24.6	33.8	15.2	19.1	14.4	20.3	5.1	0.0
自分の知識や技能をいかせる仕事がない	5.2	7.1	4.7	1.6	5.8	6.5	8.7	2.1	4.2	7.8	-	-
求人技術水準が高いなど 自分の技術や技能水準にあう仕事がない	2.4	3.5	1.2	1.6	2.3	3.9	0.0	2.1	2.5	3.1	0.0	-
正職員・パート・アルバイトなど希望するかたちの仕事がない	3.8	5.0	4.7	4.7	2.9	5.2	2.2	0.0	5.9	6.3	7.7	0.0
近くに仕事がない	3.8	3.5	2.3	2.3	3.5	2.6	2.2	6.4	4.2	4.7	2.6	6.7
条件にこだわっていないが とにかく仕事がない	6.9	6.4	8.1	8.1	6.4	5.2	6.5	8.5	7.6	7.8	10.3	6.7
その他	5.6	5.0	9.3	9.3	5.8	7.8	10.9	-	4.2	3.1	5.1	6.7
不詳	19.4	21.3	17.4	17.4	17.0	18.2	15.2	17.0	22.9	26.6	20.5	13.3

資料出所 総務庁統計局「求職状況実態調査」（1998年10月）

第37表 性、年齢階級別失業頻度、失業継続期間(1996～98年)

第37表 性、年齢階級別失業頻度、失業継続期間（1996～98年）

（単位 %、か月）

年齢階級	男性			女性		
	完全失業率	失業頻度	失業継続期間	完全失業率	失業頻度	失業継続期間
15～19歳	10.4	3.30	3.25	9.1	3.85	2.30
20～24	6.5	1.71	4.01	6.4	2.20	3.02
25～29	4.3	0.68	5.76	6.3	1.79	3.31
30～34	2.7	0.45	5.75	4.9	1.47	3.13
35～39	2.3	0.35	6.68	3.4	1.15	2.82
40～44	2.4	0.46	6.84	2.4	1.00	2.55
45～49	2.1	0.41	6.77	2.1	0.82	2.79
50～54	2.3	0.24	8.09	2.0	0.72	2.83
55～59	2.9	0.45	5.42	2.4	0.82	2.55
60～64	9.1	1.83	5.06	2.5	0.97	2.81
65歳以上	2.4	0.69	3.14	0.6	0.29	2.13

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」を労働省政策調査部にて特別集計したものから労働省労働経済課試算

- (注) 1) 失業率は、公表数値を平均したもの。
 2) フローデータは労働省労働経済課で修正したものを使用。
 3) 失業頻度、失業継続期間の定義は本文第21表参照。
 4) 年齢により誤差が大きい場合がある。
 5) 本文図表第21表の年齢計のデータに比べて誤差が大きい点留意する必要がある。

第38表 年齢各歳別完全失業者数(1998年平均)

第38表 年齢各歳別完全失業者数 (1998年平均)
(単位 万人)

年齢	男女計	前年差	男性	女性
15歳	0	0	0	0
16	1	0	1	0
17	2	0	1	1
18	5	1	3	2
19	7	1	4	3
20	9	1	5	4
21	9	1	4	4
22	10	1	5	5
23	11	1	6	5
24	11	1	6	5
25	11	2	6	5
26	10	2	5	5
27	9	1	5	4
28	8	1	4	4
29	8	2	4	4
30	6	2	3	3
31	6	1	3	3
32	4	0	2	2
33	5	1	3	2
34	5	1	2	2
35	4	1	3	2
36	5	2	2	2
37	4	1	2	2
38	4	1	2	2
39	3	0	2	2
40	4	1	2	2
41	3	1	2	2
42	3	0	2	1
43	4	1	2	2
44	4	1	2	1
45	4	0	2	2
46	4	1	2	2
47	4	0	2	2
48	5	1	3	2
49	5	1	3	2
50	5	1	3	2
51	4	1	2	2
52	3	1	2	1
53	3	0	2	1
54	4	1	2	1
55	4	1	3	1
56	5	2	3	2
57	4	1	3	1
58	4	1	3	1
59	4	1	3	1
60	12	3	10	2
61	8	1	6	1
62	5	0	5	1
63	5	1	4	1
64	4	0	3	1
65	3	1	3	1
66	2	0	2	0
67	1	0	1	0
68	1	0	1	0
69	1	0	1	0
70	0	0	0	0

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」

第39表 年齢階級別就職率の推移

第39表 年齢階級別就職率の推移

(単位 %)

年	年齢計	15～29歳	30～44歳	45～59歳	60歳以上
1985年	6.8	8.3	8.5	5.3	2.3
86	6.4	8.1	8.2	4.8	2.1
87	7.3	9.1	9.2	5.9	2.2
88	8.2	9.8	10.2	7.4	2.8
89	8.2	10.0	10.5	7.2	3.1
90	7.7	9.6	9.9	6.6	2.7
91	7.3	9.0	9.3	6.4	2.6
92	6.5	7.9	8.4	5.8	2.2
93	5.7	7.2	7.3	5.2	1.8
94	5.9	7.4	7.7	6.0	1.7
95	5.9	7.6	7.8	5.6	1.8
96	6.2	8.2	8.1	5.9	1.7
97	6.1	8.1	7.8	5.9	1.8
98	5.4	6.9	6.7	5.2	1.6

資料出所 労働省「職業安定業務統計」
(注) 各年10月結果。常用。

第40表 年齢階級、世帯主との続き柄別完全失業率(1998年前年差)

第40表 年齢階級、世帯主との続き柄別完全失業率 (1998年前年差)

(単位 %)

年齢	総計	世帯主	世帯主の 配偶者	その他の 家族	単身世帯
年齢計	0.7	0.6	0.4	0.9	1.1
15～19歳	1.6	0.9	-7.6	1.6	1.0
20～24歳	0.9	1.2	0.2	0.8	1.3
25～29歳	0.7	0.5	-0.1	1.0	0.9
30～34歳	0.7	0.5	0.7	1.2	0.4
35～39歳	0.6	0.5	0.3	1.0	1.1
40～44歳	0.7	0.4	0.8	0.3	1.3
45～49歳	0.5	0.3	0.3	0.9	-0.2
50～54歳	0.4	0.4	0.3	-0.6	1.1
55～59歳	0.8	0.7	0.4	1.1	1.9
60～64歳	1.3	1.6	0.3	1.1	2.8
65歳以上	0.6	0.6	0.1	0.4	1.1

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」を労働省政策調査部にて特別集計

第41表 世帯主との続き柄、求職理由別完全失業者数

第41表 世帯主との続き柄、求職理由別完全失業者数

(単位 万人)

年	世帯主					世帯主の配偶者				
	失業者計	非自発的離職	自発的離職	学卒未就職	その他の者	失業者計	非自発的離職	自発的離職	学卒未就職	その他の者
1991年	37	13	11	0	11	22	3	11	0	7
92	39	15	13	0	10	21	3	10	0	6
93	48	20	15	0	10	25	5	12	0	7
94	55	24	16	0	12	28	6	14	0	7
95	59	26	17	0	14	29	6	14	0	8
96	64	29	18	0	14	29	6	13	0	8
97	64	26	20	0	16	29	6	14	0	8
98	80	39	19	0	19	36	9	16	0	10
前年差										
1991年	-3	-1	0	0	-1	2	0	1	0	1
92	2	2	2	0	-1	-1	0	-1	0	-1
93	9	5	2	0	0	4	2	2	0	1
94	7	4	1	0	2	3	1	2	0	0
95	4	2	1	0	2	1	0	0	0	1
96	5	3	1	0	0	0	0	-1	0	0
97	0	-3	2	0	2	0	0	1	0	0
98	16	13	-1	0	3	7	3	2	0	2

年	その他の家族					単身世帯				
	失業者計	非自発的離職	自発的離職	学卒未就職	その他の者	失業者計	非自発的離職	自発的離職	学卒未就職	その他の者
1991年	57	11	24	5	12	20	4	8	0	6
92	59	10	28	5	12	22	5	9	0	6
93	67	11	32	6	14	26	6	10	0	7
94	78	13	36	8	17	31	8	12	1	8
95	89	15	40	10	20	33	9	12	1	9
96	98	16	44	12	22	34	9	12	1	10
97	102	15	48	11	25	34	8	13	1	10
98	120	24	50	14	28	43	13	15	1	11
前年差										
1991年	2	0	2	0	-1	1	0	0	0	0
92	2	-1	4	0	0	2	1	1	0	0
93	8	1	4	1	2	4	1	1	0	1
94	11	2	4	2	3	5	2	2	1	1
95	11	2	4	2	3	2	1	0	0	1
96	9	1	4	2	2	1	0	0	0	1
97	4	-1	4	-1	3	0	-1	1	0	0
98	18	9	2	3	3	9	5	2	0	1

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」

第42表 離職する前の家計の主な担い手と再就職する時期についての考え

第42表 離職する前の家計の主な担い手と再就職する時期についての考え

(単位 %)

離職する前の家計 の主な担い手	再就職する時期についての考え					
	計	できるだけ 早く再就職 したかった	焦らずによ い再就職先 をさがした かった	しばらく休 んでから再 就職したか った	特に再就職 の時期は考 えなかった	不明
計	100.0	31.4	41.3	18.7	7.0	1.6
扶養家族のいる世帯主	100.0	41.4	29.7	15.8	11.7	1.5
扶養家族のいない世帯主	100.0	30.9	46.8	18.1	4.3	-
一人暮らしで世帯主	100.0	31.1	42.6	19.9	6.0	0.3
世帯主の配偶者	100.0	27.0	46.6	17.6	7.4	1.4
世帯主・配偶者以外の家族	100.0	22.6	50.8	21.5	4.6	0.5
その他	100.0	37.5	25.0	37.5	-	-
不明	100.0	18.8	12.5	6.3	-	62.5

資料出所 日本労働研究機構「失業構造の実態調査結果(中間報告)」(1998年)

第43表 失業期間,世帯主との続き柄別完全失業者数

第43表 失業期間、世帯主との続き柄別完全失業者数

(単位 万人、%)

世帯主との続き柄	総数	1か月 未満	1~3か 月未満	3~6か 月未満	6か月~ 1年未満	1年以上
(実数)						
総数	313	40	76	57	69	70
世帯主	88	20	20	16	21	22
世帯主の配偶者	45	6	15	9	10	5
その他の親族世帯員	129	23	30	22	27	32
単身世帯	50	10	10	10	11	11
(構成比)						
総数	100.0	12.8	25.2	17.1	18.3	20.7
世帯主	100.0	22.7	22.9	14.3	22.9	24.3
世帯主の配偶者	100.0	13.3	29.7	21.6	18.9	10.8
その他の親族世帯員	100.0	17.8	24.0	18.0	16.0	23.0
単身世帯	100.0	20.0	28.9	13.2	15.8	18.4

資料出所 総務庁統計局「労働力調査特別調査」(1999年2月)

第44表 職業間労働移動の状況

第44表 職業間労働移動の状況

(単位 %、か月)

類型	前職産業計	専門的・技術的職業従事者	管理的職業従事者	事務従事者	販売従事者	サービス職業従事者	保安職業従事者	運輸・通信従事者	技能工、探掘・製造・建設作業員及び事務作業員
(比率)									
同一職業へ転職	60.8	72.6	38.3	66.5	45.8	48.4	42.0	67.6	72.9
他職業へ転職	39.2	27.4	61.7	33.5	54.2	51.6	58.0	32.4	27.1
他職業からの転職	39.2	24.7	52.1	42.3	49.2	42.1	71.6	47.2	38.3
(平均離職期間)									
同一職業へ転職	2.91	2.84	1.59	3.12	2.94	2.97	3.26	2.64	2.92
他職業へ転職	3.37	3.37	3.35	3.89	3.30	3.27	4.05	3.17	3.29

資料出所 労働省「雇用動向調査」(1997年)を労働省政策調査部で特別集計

(注) 1) 出向、出向元への復帰及び前の会社の紹介による労働移動を除く。

2) 平均離職期間は、階級値をとって算出した。

「1か月未満 (0.5か月)」、「1～3か月 (2か月)」、「3～6か月未満 (4.5か月)」、「6か月～1年未満 (9か月)」

第45表 産業間労働移動の状況

第45表 産業間労働移動の状況

(単位 %、か月)

年齢	前職産業計	建設業	製造業	運輸・通信業	卸売・小売業、飲食店	金融・保険、不動産業	サービス業
(他産業転職比率)							
年齢計	50.5	43.6	47.3	50.7	52.2	68.6	50.6
15～29歳	56.2	49.5	55.5	55.5	59.2	77.3	53.2
30～39	48.8	51.9	41.9	46.6	44.1	74.4	52.0
40～49	45.9	38.8	42.0	43.2	49.4	54.0	49.1
50～59	37.9	24.6	41.4	50.5	35.9	40.6	36.0
60歳以上	46.4	40.3	45.0	54.6	80.8	63.8	35.8
(平均離職期間)							
同一産業への転職	2.9	2.9	2.9	2.6	3.1	1.8	3.1
他産業への転職	3.3	3.2	3.2	3.2	3.2	3.8	3.3
(賃金変動幅)							
同一産業への転職							
年齢計	1.9	3.8	1.8	4.5	-0.6	2.6	1.5
15～29歳	4.4	6.6	3.8	5.7	3.0	11.2	3.7
30～39	2.0	2.5	3.3	6.4	-0.1	-1.3	0.4
40～49	1.0	5.9	2.1	2.4	-3.3	-1.0	-0.6
50～59	-1.4	3.0	-3.7	4.0	-8.2	-2.2	-1.6
60歳以上	-7.1	-4.7	-9.2	-7.5	-26.4	-28.9	-6.0
他産業への転職							
年齢計	0.7	-2.1	0.0	-1.9	2.8	-5.9	3.6
15～29歳	2.7	2.0	2.0	1.2	4.3	-6.0	5.1
30～39	0.9	-1.9	2.3	-2.2	1.5	-2.0	1.9
40～49	0.3	-0.8	-2.7	0.1	4.4	-10.3	3.5
50～59	-4.2	-13.1	-3.3	-5.6	-3.3	-1.4	0.6
60歳以上	-14.2	-14.0	-14.7	-24.8	-13.6	-19.8	-10.8

資料出所 労働省「雇用動向調査」(1997年)を労働省政策調査部で特別集計

(注) 1) 出向、出向元への復帰及び前の会社の紹介による転職を除く。

2) 平均離職期間、賃金変動幅については階級値により算出。

離職期間「1か月未満(0.5か月)」、「1～3か月(2か月)」、「3～6か月未満(4.5か月)」、「6か月～1年未満(9か月)」

賃金「3割以上増加(+30%)」、「1～3割増加(+20%)」、「1割減少～1割増加(0%)」、「1～3割減少(-20%)」、「3割以上減少(-30%)」

第46表 産業別雇用失業率

第46表 産業別雇用失業率

(単位 %)

年	非農林業計	製造業	卸売・小売業、飲食店	サービス業
1985年	2.24	1.85	2.75	1.86
90	1.38	1.50	1.69	1.06
95	2.30	2.17	2.65	2.11
97	2.49	2.41	2.97	2.27
98	2.66	2.81	2.66	2.46
99	3.04	3.46	3.20	2.55

資料出所 総務庁統計局「労働力調査特別調査」より労働省労働経済課試算

(注) 1) 産業別雇用失業率 = $\frac{\text{各産業からの離職失業者 (過去3年間の離職者)}}{\text{各産業の雇用者} + \text{各産業からの離職失業者 (過去3年間の離職者)}}$

2) 各年2月結果。

第47表 産業別離職率

第47表 産業別離職率

(単位 %))

年	調査産業計	建設業	製造業	運輸・通信業	卸売・小売業、飲食店	サービス業
1998年	1.96	2.08	1.47	1.88	2.46	1.99

資料出所 労働省「毎月勤労統計調査」

(注) 事業所規模5人以上。

第48表 前職の産業、失業期間別完全失業者数

第48表 前職の産業、失業期間別完全失業者数

(単位 万人、%))

前職の産業	総数	失業期間				
		1か月未満	1～3か月未満	3～6か月未満	6か月～1年未満	1年以上
(実数)						
非農林業	191	26	52	40	47	25
建設業	20	3	6	4	5	3
製造業	48	5	12	12	13	7
運輸・通信業	17	2	5	4	4	1
卸売・小売業、飲食店	48	9	14	8	11	6
サービス業	43	6	12	9	10	6
(構成比)						
非農林業	100.0	13.6	27.2	20.9	24.6	13.1
建設業	100.0	15.0	30.0	20.0	25.0	15.0
製造業	100.0	10.4	25.0	25.0	27.1	14.6
運輸・通信業	100.0	11.8	29.4	23.5	23.5	5.9
卸売・小売業、飲食店	100.0	18.8	29.2	16.7	22.9	12.5
サービス業	100.0	14.0	27.9	20.9	23.3	14.0

資料出所 総務庁統計局「労働力調査特別調査」(1999年2月)

(注) 離職後3年以内の離職失業者についてみたもの。

第49表 前職産業別にみた現在の就業状態

第49表 前職産業別にみた現在の就業状態

(単位 %)

現在の就業状態	非農林業計	建設業	製造業	運輸・通信業	卸売・小売業、飲食店	サービス業
(1996年3月以降に離職)						
就業者	50.8	54.3	48.3	50.0	51.9	50.1
完全失業者	15.3	20.0	18.2	18.2	12.9	13.7
非労働力人口	34.0	25.7	33.5	31.8	35.2	36.2
(1998年3月以降に離職)						
就業者	41.5	44.8	39.3	37.3	41.4	43.5
完全失業者	24.6	28.4	31.1	29.4	20.7	22.3
非労働力人口	33.9	26.9	29.6	33.3	37.9	34.2

資料出所 総務庁統計局「労働力調査特別調査」(1999年2月)より労働省労働経済課試算

第50表 性、年齢階級別長期失業者割合

第50表 性、年齢階級別長期失業者割合

(単位 万人、%)

年齢	男女計			男性			女性		
	完全失業者数	長期失業者数	長期失業者割合	完全失業者数	長期失業者数	長期失業者割合	完全失業者数	長期失業者数	長期失業者割合
総数	313	70	22.4	189	52	27.5	124	18	14.5
15～24歳	70	10	14.3	40	6	15.0	30	3	10.0
25～34歳	82	18	22.0	42	13	31.0	39	5	12.8
35～44歳	40	10	25.0	22	6	27.3	18	3	16.7
45～54歳	51	12	23.5	29	9	31.0	22	3	13.6
55～64歳	59	16	27.1	46	13	28.3	13	3	23.1
65歳以上	11	5	45.5	10	4	40.0	1	1	100.0

資料出所 総務庁統計局「労働力調査特別調査」(1999年2月)

(注) 長期失業者=失業期間1年以上の者
 長期失業者割合=長期失業者/完全失業者

第51表 男女別長期失業者割合の推移

第51表 男女別長期失業者割合の推移

(単位 万人、%)

年	男女計			男性			女性		
	完全失業者数	長期失業者数	長期失業者割合	完全失業者数	長期失業者数	長期失業者割合	完全失業者数	長期失業者数	長期失業者割合
1977年	127	15	11.8	82	11	13.4	45	4	8.9
78	141	24	17.0	90	19	21.1	50	5	10.0
79	135	23	17.0	85	16	18.8	50	7	14.0
80	124	20	16.1	75	13	17.3	49	7	14.3
81	142	19	13.4	88	14	15.9	54	5	9.3
82	147	21	14.3	90	13	14.4	57	8	14.0
83	130	17	13.1	86	14	16.3	43	3	7.0
84	171	25	14.6	104	18	17.3	67	7	10.4
85	164	21	12.8	101	16	15.8	63	5	7.9
86	164	28	17.1	98	21	21.4	65	7	10.8
87	186	35	18.8	111	27	24.3	75	8	10.7
88	173	35	20.2	106	25	23.6	67	9	13.4
89	151	28	18.5	87	20	23.0	64	8	12.5
90	142	27	19.0	84	22	26.2	59	6	10.2
91	136	24	17.6	83	17	20.5	53	7	13.2
92	137	21	15.3	80	16	20.0	57	5	8.8
93	157	24	15.3	89	18	20.2	68	7	10.3
94	194	32	16.5	110	23	20.9	84	9	10.7
95	199	36	18.1	117	27	23.1	82	9	11.0
96	224	44	19.6	133	32	24.1	91	12	13.2
97	230	48	20.9	135	37	27.4	94	11	11.7
98	246	51	20.7	151	39	25.8	95	13	13.7
99	313	70	22.4	189	52	27.5	124	18	14.5

資料出所 総務庁統計局「労働力調査特別調査」

(注) 1)1982年以前は3月調査、1983年以降2月調査

2)1983年は主に求職活動を行っていた者を対象としており、前後の年とは接続しない。

第52表 年齢階級、求職理由別6か月以上失業者の割合(1990～99年の累計)

第52表 年齢階級、求職理由別6か月以上失業者の割合
(1990～99年の累計)

(単位 %)

年齢	総数	離職		学卒未就職	
		自発的離職	非自発的離職		
年齢計	38.8	36.6	41.1	33.0	60.0
15～24歳	28.5	23.7	20.8	24.8	58.5
25～34	35.1	33.1	30.2	31.7	45.5
35～44	36.8	35.4	37.8	35.5	—
45～54	43.0	41.3	37.9	41.9	—
55～64	53.2	50.4	50.0	49.1	—
65歳以上	57.6	57.6	65.4	0.0	—

資料出所 総務庁統計局「労働力調査特別調査」より労働省労働経済課試算

第53表 前職の就業形態別長期失業者割合の推移

第53表 前職の就業形態別長期失業者割合の推移

(単位 万人、%)

年	雇用者 (役員を除く)			正規の職員・従業員			非正規雇用者		
	完全失業者数	長期失業者数	長期失業者割合	完全失業者数	長期失業者数	長期失業者割合	完全失業者数	長期失業者数	長期失業者割合
1985年	92	7	7.6	74	6	8.1	18	1	5.6
86	90	9	10.0	70	8	11.4	20	0	0.0
87	104	9	8.7	80	7	8.8	23	1	4.3
88	92	9	9.8	69	7	10.1	24	3	12.5
89	78	8	10.3	59	6	10.2	19	3	15.8
90	63	5	7.9	48	4	8.3	15	0	0.0
91	69	5	7.2	51	4	7.8	18	0	0.0
92	74	4	5.4	57	3	5.3	17	2	11.8
93	91	7	7.7	67	5	7.5	24	2	8.3
94	109	8	7.3	80	6	7.5	29	2	6.9
95	115	11	9.6	86	9	10.5	28	3	10.7
96	131	15	11.5	101	12	11.9	30	3	10.0
97	133	15	11.3	98	12	12.2	35	3	8.6
98	139	15	10.8	102	13	12.7	36	2	5.6
99	186	24	12.9	132	17	12.9	54	7	13.0

資料出所 総務庁統計局「労働力調査特別調査」(各年2月)

(注) 1) 離職後3年以内の離職失業者についてみたもの。

2) 非正規雇用者は、パート、アルバイト、嘱託、その他を合計したもの。

第54表 標準化失業率の推移

第54表 標準化失業率の推移

(単位 %)

年・期	日本	アメリカ	イギリス	フランス	ドイツ	オランダ
1978年	2.2	6.1	5.7	4.7	3.0	5.7
79	2.1	5.8	4.7	5.3	2.7	5.8
80	2.0	7.2	6.2	5.8	2.6	6.0
81	2.2	7.6	<u>9.7</u>	<u>7.0</u>	<u>4.0</u>	<u>6.8</u>
82	2.4	9.7	11.1	7.7	5.7	8.2
83	2.7	9.6	11.1	8.1	6.9	9.7
84	2.7	7.5	11.1	9.7	7.1	9.3
85	2.6	7.2	11.5	10.1	7.2	8.3
86	2.8	7.0	11.5	10.2	6.5	8.3
87	2.8	6.2	10.6	10.4	6.3	8.0
88	2.5	5.5	8.7	9.8	6.2	7.5
89	2.3	<u>5.3</u>	7.3	9.3	5.6	6.9
90	2.1	5.6	7.1	9.0	<u>4.8</u>	6.2
91	2.1	6.8	8.8	9.5	5.6	5.8
92	2.2	7.5	10.1	10.4	6.6	5.6
93	2.5	<u>6.9</u>	10.5	11.7	7.9	6.6
94	2.9	6.1	9.6	12.3	8.4	7.1
95	3.1	5.6	8.8	11.7	8.2	6.9
96	3.4	<u>5.4</u>	8.2	12.4	8.9	6.3
97	3.4	4.9	7.0	12.3	9.9	5.2
98	4.1	4.5	6.3	11.7	9.4	4.0
1998年 I	3.7	4.6	6.4	11.9	9.8	4.5
II	4.1	4.4	6.3	11.7	9.5	4.0
III	4.2	4.5	6.3	11.7	9.3	3.7
IV	4.4	4.4	6.3	11.6	9.1	3.6

資料出所 OECD"Employment Outlook 62"(1997年)及びOECD資料

(注) 1)下線を付した年の前後はデータが連続しない。

2)ドイツについては、1990年までは旧西ドイツ地域。

第55表 失業率の上昇幅の日米比較(1991~98年)

第55表 失業率の上昇幅の日米比較 (1991~98年)

(単位 %ポイント)

国・性	年齢計	19歳以下	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65歳以上
(日本)												
男女計	2.0	4.0	3.3	2.8	2.1	1.6	1.4	1.3	1.3	1.6	3.9	1.1
男性	2.2	4.8	3.3	2.9	1.5	1.6	1.7	1.2	1.4	1.9	5.1	1.3
女性	1.8	3.3	3.1	2.7	3.1	1.5	1.4	1.1	0.8	1.0	1.7	0.6
(アメリカ)												
男女計	-2.2	-4.0	-2.9	-2.7	-2.3	-2.1	-1.4	-1.7	-1.8	-1.8	-1.1	-0.1
男性	-2.6	-3.6	-3.6	-3.1	-3.0	-2.8	-1.9	-2.0	-2.0	-2.3	-1.2	-0.2
女性	-1.7	-4.5	-2.0	-2.1	-1.7	-1.0	-0.9	-1.4	-1.6	-1.1	-1.0	0.0

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」、アメリカ労働省"Employment and Earnings"

(注) 日本の「19歳以下」は15~19歳。アメリカの「19歳以下」は16~19歳。

第56表 アメリカの求職理由別失業者数

第56表 アメリカの求職理由別失業者数

(単位 千人、%)

年	失業者数					構成比					非自発的 離職失業率
	失業者計	<1>	<2>	<3>	<4>	失業者計	<1>	<2>	<3>	<4>	
1984年	8539	4421	823	2184	1110	100.0	51.8	9.6	25.6	13.0	3.2
85	8312	4139	877	2256	1039	100.0	49.8	10.6	27.1	12.5	3.0
86	8237	4033	1015	2160	1029	100.0	49.0	12.3	26.2	12.5	2.9
87	7425	3566	965	1974	920	100.0	48.0	13.0	26.6	12.4	2.6
88	6701	3092	983	1809	816	100.0	46.1	14.7	27.0	12.2	2.2
89	6528	2983	1024	1843	677	100.0	45.7	15.7	28.2	10.4	2.2
90	7047	3387	1041	1930	688	100.0	48.1	14.8	27.4	9.8	2.5
91	8628	4694	1004	2139	792	100.0	54.4	11.6	24.8	9.2	3.4
92	9613	5389	1002	2285	937	100.0	56.1	10.4	23.8	9.7	3.9
93	8940	4848	976	2198	919	100.0	54.2	10.9	24.6	10.3	3.5
94	7996	3815	791	2786	604	100.0	47.7	9.9	34.8	7.6	2.8
95	7404	3476	824	2525	579	100.0	46.9	11.1	34.1	7.8	2.5
96	7236	3370	774	2512	580	100.0	46.6	10.7	34.7	8.0	2.4
97	6739	3037	795	2338	569	100.0	45.1	11.8	34.7	8.4	2.2
98	6210	2822	734	2132	520	100.0	45.4	11.8	34.3	8.4	2.0

資料出所 アメリカ労働省"Employment and Earnings"

(注) 1) <1>~<4>は以下の通り。

<1>Job Losers <2>Job Leavers <3>Reentrants <4>New Entrants

2) 非自発的離職失業率=Job Losers/労働力人口 で算出。

第57表 失業が実質GDPに与える影響

第57表 失業が実質GDPに与える影響

推計式 (コブ・ダグラス型生産関数)

$$Y = \gamma e^{\alpha T} (KS)^a (LH)^{(1-a)}$$

Y = 実質GDP (季節調整値)

LH = 稼働労働量

KS = 稼働資本量

L = 就業者数 (季節調整値)

H = 総実労働時間 (季節調整値)

K = 民間企業資本ストック取り付けベース前期末実質値 (季節調整値)

S = 製造工業稼働率 (季節調整値)

 γ = 効率パラメータ $e^{\alpha T}$ = 技術進歩パラメータ

a = 資本分配率

両辺をLHで割り、対数変換した下記の式を推計する。

$$\ln(Y/LH) = \ln\gamma + \alpha T + a \ln(KS/LH)$$

なお、トレンドについては、バブル期を考慮して以下のように設定した。

T₁ = 1988年第1四半期から1993年第4四半期まで一次増加。以降は横ばい。T₂ = 1994年第1四半期から一次増加。

推計結果は以下のとおり

$$\ln(Y/LH) = -4.8925 + 0.0039 T_1 - 0.0005 T_2 + 0.3790 \ln(KS/LH)$$

(-7.00) (5.35) (-0.74) (6.23)

$$\bar{R}^2 = 0.97755$$

$$D.W. = 1.48700$$

() 内はt値。推計期間は、1988年第1四半期から1998年第4四半期。

推計結果に稼働労働量、稼働資本量の1998年第4四半期の数値(季節調整値)を代入した結果と、就業者のみ実際より68万人少ない就業者数を代入した結果の差は約3.1兆円となり、これは1998年第4四半期の実質GDP(季節調整値)473兆6,640億円の0.7%に当たる。

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」、経済企画庁「国民経済計算」、通商産業省「通産統計」

(注) 1) 民間企業資本ストックは、労働経済課にて、季節調整を行った。

2) 経済企画庁「日本経済の現況」(平成11年版)を参考にした。

第58表 失業が消費性向に与える影響

第58表 失業が消費性向に与える影響

推計結果は以下のとおり。

$$Y = 80.5655 - 0.1852 X_1 - 2.4463 X_2 + 2.3709 X_3$$

(40.55) (-2.25) (-2.37) (5.32)

$$\bar{R}^2 = 0.9360 \quad D.W. = 1.9907$$

() 内は t 値。推計期間は1980年～1997年。

Y = 消費性向 (= 家計最終消費支出 ÷ 可処分所得)

X₁ = 実質可処分所得前年比

X₂ = 需要不足失業率

X₃ = 金融資産可処分所得倍率 (= 前年末と今年末の金融資産の平均 ÷ 可処分所得)

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」、経済企画庁「国民経済計算」

(注) 付注-5のとおり推計すると、需要不足失業率は1997年0.47%、1998年0.93%となり、1998年は前年差0.46%ポイントの上昇となる。

第59表 過去の転職回数別転職率

第59表 過去の転職回数別転職率

(単位 %)

性、回数、構成比	パネル3までの転職率
(女性)	
パネル1までの転職回数	
0回 (46.1)	7.4
1回 (30.8)	17.4
2回 (10.4)	20.3
3回以上 (12.7)	25.6
(男性)	
パネル2までの転職回数	
0回 (54.4)	7.5
1回 (19.4)	21.6
2回 (11.4)	42.1
3回 (8.9)	32.4
4回以上 (5.9)	40.8

資料出所 (財)家計経済研究所「消費生活に関するパネル調査」

(注) 1) () 内は、対象全サンプルに占める構成比。

2) パネル1は第1年度(1993年)、パネル2は第2年度(1994年)、パネル3は第3年度(1995年)。

第60表 有職者の失業に対するイメージ

第60表 有職者の失業に対するイメージ

(単位 %)

項目	そう思う	どちらかと言えそう思う	どちらかと言えそう思わない	そう思わない	わからない
社会とのつながりを失う	27.7	27.8	19.7	21.8	2.9
生きていく値打ちを失う	12.9	16.3	22.1	44.1	4.6
人生をやり直すきっかけになる	24.9	34.7	17.5	16.0	6.9

資料出所 日本労働研究機構「勤労生活に関する調査」(1999年)

第61表 OECDの推計によるアメリカの均衡失業率

第61表 OECDの推計によるアメリカの均衡失業率

(単位 %)

項目	1986年	1990年	1997年
均衡失業率	6.2	5.8	5.6

資料出所 OECD "Implementing the OECD Jobs Strategy Lessons from Member Countries' Experience"(1997), "Economic Outlook No.63"(1998)

(注) 均衡失業率は、NAWRU (Non Accelerating Wage Rate of Unemployment: 賃金上昇が加速しない失業率)

第62表 職業別年齢間ミスマッチ指標等の状況(1998年)

第62表 職業別年齢間ミスマッチ指標等の状況 (1998年)

(1) 職業別年齢間ミスマッチ指標

職業	ミスマッチ指標
職業計	0.291
専門的・技術的職業従事者	0.185
管理的職業従事者	0.700
事務従事者	0.247
販売従事者	0.250
サービス職業従事者	0.394
保安職業従事者	0.404
農林漁業作業者	0.397
運輸・通信従事者	0.269
技能工、採掘・製造・建設作業者及び労務作業者	0.437

(2) 職業計及び専門的・技術的職業従事者の年齢別常用有効求人倍率 (倍)

年齢	職業計	専門的・技術的職業従事者
年齢計	0.43	0.73
15～19歳	1.38	2.19
20～24	0.51	0.72
25～29	0.51	0.66
30～34	0.75	1.03
35～39	0.89	1.33
40～44	0.71	1.13
45～49	0.35	0.61
50～54	0.27	0.53
55～59	0.14	0.28
60～64	0.05	0.08
65歳以上	0.15	0.37

資料出所 労働省「職業安定業務統計」を特別集計
(注)

$$\text{ミスマッチ指標} = \frac{1}{2} \sum \left| \frac{U_i}{U} - \frac{V_i}{V} \right|$$

U_i…区分 i の求職者数 U…求職者総数
V_i…区分 i の求人数 V…求人総数

第63表 労働力不足への労働面での対処方法別事業所割合及び労働者採用に当たっての対応別事業所割合

第63表 労働力不足への労働面での対処方法別事業所割合及び労働者採用に当たっての対応別事業所割合

(1)労働力不足への労働面での対処方法別事業所割合 (調査産業計)

(単位 %)

対処方法	1989年	90	91
配置転換、出向者の受入れ *1)	20	14	16
休日出勤、所定外労働時間の増加 *2)	30	41	27
定年延長と定年退職者の活用	23	24	30
転退職の防止策の強化 *3)		24	26
女子中途退職者の再雇用制度の活用 *4)	5	6	7
若年常用労働者の中途採用の増加	49	40	43
中・高齢者の中途採用の増加	32	28	29
臨時・季節、パートタイム労働者の増加	48	35	34
派遣労働者の活用	17	16	14
その他の対処	2	4	4
特別な対処はしない	6	6	3

資料出所 労働省「労働経済動向調査」(各年11月調査)

(注) 1)現在までに実施した方法について、3つ以内の複数回答。

2)*1) 1989年は「配置転換」

3)*2) 1989年は「出勤日、労働時間の増加」

4)*3) 1989年は、調査項目がない

5)*4) 1989年は「結婚退職者などの再雇用制度の活用」

(2)常用労働者採用に当たっての対応別事業所割合 (調査産業計)

(単位 %)

対応	割合
休日の増加、所定内労働時間の短縮	31
フレックスタイム等変形労働時間制の導入	6
賃金引上げ	37
年齢制限の緩和	21
専門・技術力などの条件の緩和	3
福祉施設の充実	8
募集地域の拡大	18
イメージアップ(社名変更等)	4
その他の対応	4
特別な対応はしない	24

資料出所 労働省「労働経済動向調査」(1990年11月調査)

(注) 2つ以内の複数回答。

第64表 60歳以上定年企業の割合

第64表 60歳以上定年企業の割合

(単位 %))

年	規模計	5,000人 以上	1,000～ 4,999人	300～ 999人	100～ 299人	30～99人
1974年	15.5	7.7	11.0	13.1	15.9	15.8
76	18.8	12.7	12.5	13.5	17.4	19.8
78	21.2	16.2	14.4	16.5	20.4	22.2
80	23.8	21.8	17.3	18.1	21.9	25.1
81	20.7	29.8	22.3	20.0	21.4	20.2
82	30.0	39.9	27.7	22.6	25.6	32.0
83	33.8	46.3	31.4	25.7	28.6	36.2
84	36.1	49.7	36.6	30.8	31.2	38.0
85	38.9	64.1	43.0	33.5	34.9	40.5
86	41.3	76.2	53.9	39.5	38.0	41.6
87	47.2	78.3	67.2	49.1	47.9	45.9
88	46.8	74.4	68.0	56.2	48.6	44.7
89	50.9	80.7	71.9	60.8	54.5	48.3
90	52.3	85.7	80.7	64.7	64.1	46.7
91	61.4	90.0	83.4	73.9	73.5	56.1
92	67.5	90.7	88.0	79.8	79.6	62.0
93	67.9	92.8	90.9	89.0	79.0	61.6
94	73.8	95.3	92.5	89.7	84.1	68.3
95	76.2	92.0	95.2	92.9	88.3	70.2
96	79.3	94.6	94.6	92.4	88.7	74.6
97	81.8	93.5	95.7	93.5	89.8	77.7
98	80.7	94.6	96.3	94.6	90.2	76.0
99	86.9	95.1	97.7	96.9	95.2	83.1

資料出所 労働省「雇用管理調査」

(注) 1) 全企業に占める一律60歳以上定年企業の割合。

2) 1975、77、79年は調査なし。

第65表 前職と同じ仕事を探している離職失業者の割合

第65表 前職と同じ仕事を探している離職失業者数の割合
(単位 %)

仕事の種類	割合
離職失業者計	52.3
農林漁業	33.3
製造・生産工程 建設・労務	56.0
運輸・通信職	66.7
営業・販売職	40.9
サービス職業	37.5
専門的・技術的職業	62.5
管理的職業	33.3
事務職	65.6
保安職その他	0.0

資料出所 総務庁統計局「求職状況実態調査」(1998年10月)

(注) 1)1998年10月の完全失業者(290万人)のうち1997年11月~1998年10月の1年間に収入のある仕事をしたことのある者(184万人)について集計。

2)離職失業者計は、前職の仕事が不詳な者(10万人)を除いて集計。

第66表 再就職に際してこだわった再就職条件と緩和した希望条件

第66表 再就職に際してこだわった再就職条件と緩和した希望条件
(単位 %)

条件	こだわった割合	緩和した割合
企業の業種・規模	12.7	19.8
企業の事業内容	20.3	6.9
企業の安定性や将来性	18.5	7.0
仕事の内容・職種	63.1	10.8
労働時間・休日	41.3	15.9
給与、ボーナス	39.7	36.5
役職・肩書き	0.5	9.8
定年制や再雇用制	2.5	4.7
正社員としての採用	18.9	15.8
契約社員、嘱託、パートとしての採用	2.2	9.1
通勤事情	15.3	17.8
社屋、工場などの職場環境	0.8	6.4
健康・失業保険や年金などの社会保険	13.3	7.6
転勤の有無	1.1	3.7
特にこだわらなかった	1.7	3.1
選り好みする余裕はなかった	0.6	0.9
不明	8.4	19.7

資料出所 日本労働研究機構「失業構造の実態調査結果(中間報告)」(1998年)

(注) 3つ以内の複数回答

第67表 雇用変化率の散らばりの推移

第67表 雇用変化率の散らばりの推移

年	指標
1955年	7.10
56	5.12
57	4.55
58	6.02
59	3.80
60	3.95
61	5.03
62	3.85
63	4.30
64	2.61
65	2.63
66	3.45
67	3.11
68	3.99
69	2.68 (2.64)
70	2.03
71	2.63
72	2.82
73	2.19
74	2.14
75	4.15
76	2.44
77	2.12
78	2.72
79	2.38
80	1.97
81	2.10
82	1.84
83	2.31
84	2.68
85	1.04
86	1.74
87	2.26
88	1.78
89	1.65
90	1.86
91	1.12
92	1.03
93	2.11
94	2.33
95	2.02
96	1.89
97	1.67
98	2.38

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」

(注) 1)雇用変化率の散らばり(リリエンの指標)は、以下の式による。

$$\text{指標} = (\sum (E_{i,t} / E_t) (\Delta \ln E_{i,t} - \Delta \ln E_t)^2)^{1/2}$$

 $E_{i,t}$: t年のi産業の雇用者数 E_t : t年の全産業雇用者数

$$\Delta \ln E_t = \ln E_t - \ln E_{t-1}$$

- 2) 1955～68年及び69年の()は、産業区分は、「農林業」、「漁業」、「鉱業」、「建設業」、「製造業」、「電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業」、「卸売・小売業、飲食店、金融・保険業、不動産業」、「サービス業」、「公務(他に分類されないもの)」の9区分を用いた。
- 3) 1969年以降は、上記区分のうち、「電気・ガス・熱供給・水道業」と「運輸・通信業」、「卸売・小売業、飲食店」と「金融・保険業、不動産業」に分けた、11区分を用いた。
- 4) 数値は上記指標を100倍したもの。

第68表 ブロック別完全失業率の推移

第68表 ブロック別完全失業率の推移

(単位 %))

年	全国	北海道	東北	南関東	北関東 ・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
1974年	1.4	2.1	1.6	1.4	0.7	1.1	0.9	1.4	1.1	1.5	2.0
75	1.9	2.5	2.0	1.9	1.4	1.5	1.4	2.2	1.4	1.9	2.4
76	2.0	2.6	2.0	2.0	1.4	1.5	1.6	2.3	1.6	2.4	2.7
77	2.0	3.0	2.0	2.0	1.1	1.4	1.2	2.3	1.8	2.0	2.8
78	2.2	3.3	2.2	2.1	1.3	1.4	1.5	2.7	1.8	2.9	3.1
79	2.1	2.8	1.9	2.0	1.3	1.4	1.4	2.5	2.1	2.9	3.0
80	2.0	3.2	1.7	2.1	1.1	1.8	1.3	2.3	1.8	2.4	2.7
81	2.2	3.6	1.9	2.3	1.5	1.8	1.6	2.3	1.8	2.8	3.0
82	2.4	3.5	2.5	2.3	1.5	2.1	1.6	2.7	2.1	2.9	3.0
83	2.6	4.2	2.9	2.6	1.7	2.1	1.8	2.9	2.3	3.3	3.6
84	2.7	4.5	2.9	2.5	1.6	2.1	2.0	3.0	2.6	3.3	3.7
85	2.6	4.5	2.7	2.5	1.6	1.7	1.9	2.9	2.6	2.8	3.5
86	2.8	4.2	2.7	2.6	1.8	2.1	1.9	3.1	2.6	2.8	3.8
87	2.8	4.2	2.9	2.7	1.8	2.4	2.0	3.3	2.8	3.3	4.0
88	2.5	3.7	2.4	2.4	1.6	1.7	1.9	3.0	2.3	2.8	3.5
89	2.3	3.0	2.0	2.2	1.5	1.7	1.6	2.8	2.0	2.8	3.0
90	2.1	3.0	1.8	2.2	1.5	1.3	1.5	2.5	1.8	2.3	2.7
91	2.1	2.9	2.0	2.2	1.5	1.3	1.5	2.5	1.7	2.3	2.7
92	2.2	2.9	1.9	2.4	1.5	1.6	1.6	2.5	1.7	2.3	2.5
93	2.5	2.9	2.1	2.8	1.9	1.6	2.0	3.0	2.2	2.3	2.9
94	2.9	3.2	2.5	3.3	2.0	1.9	2.5	3.5	2.2	2.8	3.1
95	3.2	3.2	2.6	3.5	2.2	2.3	2.6	4.0	2.4	2.8	3.3
96	3.4	3.8	3.0	3.7	2.4	2.3	2.8	4.1	2.9	3.2	3.7
97	3.4	3.8	2.9	3.8	2.5	2.6	2.7	4.0	2.7	3.2	3.8
98	4.1	4.9	3.9	4.5	3.0	2.9	3.3	4.9	3.4	3.7	4.6

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」

(注) 各ブロックに含まれる都道府県は以下のとおり。

北海道 …北海道

東北 …青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

南関東 …埼玉、千葉、東京、神奈川

北関東・甲信…茨城、栃木、群馬、山梨、長野

北陸 …新潟、富山、石川、福井

東海 …岐阜、静岡、愛知、三重

近畿 …滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国 …鳥取、島根、岡山、広島、山口

四国 …徳島、香川、愛媛、高知

九州 …福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

第69表 1人当たり県民所得格差の推移

第69表 1人当たり県民所得格差の推移

(単位 倍)

年度	格差
1975年度	1.40
76	1.38
77	1.39
78	1.38
79	1.35
80	1.37
81	1.40
82	1.44
83	1.45
84	1.45
85	1.46
86	1.49
87	1.48
88	1.50
89	1.54
90	1.52
91	1.43
92	1.39
93	1.37
94	1.37
95	1.36
96	1.34

資料出所 経済企画庁「県民経済計算」

(注) 東京都/全国平均の数値を所得格差とした。

第70表 年齢階級,雇用形態別転職希望者及び転職希望求職者の各雇用形態別有業者に占める割合

第70表 年齢階級、雇用形態別転職希望者及び転職希望求職者の各雇用形態別有業者に占める割合

(単位 %)

雇用形態・年	年齢計	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65歳以上
〔転職希望者〕							
雇用者							
1987年	11.2	20.1	13.2	10.2	7.4	5.8	2.3
92	10.6	18.6	14.2	9.9	6.7	5.1	2.2
97	12.0	22.1	16.6	11.3	7.6	5.3	2.1
正規職員・従業員							
1987年	10.1	17.2	11.8	8.6	6.2	5.5	1.8
92	10.0	15.9	13.1	8.6	5.9	5.0	2.3
97	11.0	17.8	15.1	9.8	6.8	5.3	1.8
パート・アルバイト							
1987年	20.4	35.0	26.3	19.0	14.1	9.7	5.7
92	17.3	29.6	23.5	17.2	11.7	7.9	3.6
97	18.8	33.3	26.8	18.7	11.8	7.5	3.8
〔うち求職者〕							
雇用者							
1987年	4.8	8.6	5.3	4.4	3.4	2.7	0.8
92	4.4	7.9	5.8	4.0	2.8	2.2	0.8
97	5.3	10.4	7.1	4.9	3.4	2.4	0.9
正規職員・従業員							
1987年	3.8	6.1	4.3	3.3	2.6	2.4	0.5
92	3.7	5.7	5.0	3.0	2.2	2.0	0.9
97	4.2	6.5	5.7	3.6	2.7	2.1	0.8
パート・アルバイト							
1987年	11.2	20.5	14.7	9.9	7.4	5.5	2.6
92	8.9	16.3	12.3	8.5	5.7	4.0	1.3
97	10.8	19.8	15.4	10.5	6.6	4.2	1.6

資料出所 総務庁統計局「就業構造基本調査」

第71表 会社にいつまで働くかについての新入社員の意識

第71表 会社にいつまで働くかについての新入社員の意識

(単位 %)

年	定年まで働きたい	とりあえずこの会社で働く	状況次第でかわる	わからない
1971年	21	19	37	23
72	22	20	34	23
73	21	20	36	23
74	21	18	38	23
75	22	20	35	23
76	24	19	35	22
77	23	21	37	18
78	22	21	37	20
79	23	19	37	21
80	22	21	39	18
81	24	20	39	17
82	28	20	35	16
83	26	21	37	16
84	24	22	38	15
85	23	24	37	16
86	25	23	38	15
87	24	24	38	15
88	22	25	38	15
89	19	26	40	16
90	16	26	43	15
91	15	28	43	14
92	16	30	41	13
93	17	28	40	15
94	22	27	37	13
95	20	26	42	12
96	18	25	43	13
97	18	24	45	13
98	18	22	47	12

資料出所 (財) 社会経済生産性本部「働くことの意識調査」

第72表 年齢階級,転職希望理由別転職希望者数構成比

第72表 年齢階級、転職希望理由別転職希望者数構成比

(単位 %)

年齢・年	総数	一時的についた仕事だから	収入が少ないから	将来性がないから	定年などに備えて	時間的・肉体的に負担が大いから	知識や技能を生かしたいから	余暇を増やしたいから	家事的都合から	その他
[年齢計]										
1977年	100.0	10.9	24.9	15.5	3.5	22.9	7.3	—	7.3	7.0
79	100.0	10.8	24.0	13.6	3.0	29.4	7.0	1.8	4.1	6.2
82	100.0	12.1	25.6	14.5	2.6	23.2	9.0	2.1	3.8	7.0
87	100.0	12.1	25.4	13.2	2.3	23.6	9.7	2.9	2.8	8.0
92	100.0	12.2	22.9	11.9	2.4	23.9	10.1	3.4	2.6	10.3
97	100.0	12.4	24.0	13.5	2.5	22.1	10.1	3.0	2.0	10.3
[15～24歳]										
1977年	100.0	17.8	18.2	15.8	0.7	18.3	12.8	—	4.6	11.3
79	100.0	17.6	18.2	14.0	0.4	21.8	11.4	2.6	4.3	9.5
82	100.0	19.8	19.1	12.9	0.4	17.3	14.3	2.5	3.2	10.5
87	100.0	20.2	18.6	11.6	0.3	19.4	13.4	3.6	1.9	10.8
92	100.0	21.0	19.5	10.8	0.2	17.7	12.3	3.5	1.2	13.5
97	100.0	24.2	19.0	12.2	0.2	16.2	12.4	2.8	1.0	12.0
[25～34歳]										
1977年	100.0	11.0	23.2	19.0	1.8	22.3	9.0	—	5.6	7.9
79	100.0	11.8	24.2	15.9	1.4	24.2	9.1	1.9	4.7	6.6
82	100.0	11.9	24.1	17.2	0.9	21.6	10.5	2.0	4.5	7.4
87	100.0	10.9	23.8	15.5	0.7	22.2	11.9	3.0	3.0	8.9
92	100.0	10.5	22.1	14.3	0.4	21.0	13.3	3.3	3.2	11.8
97	100.0	10.9	22.1	15.9	0.5	20.7	12.6	3.0	2.5	11.9
[35～44歳]										
1977年	100.0	8.2	31.1	15.5	2.8	25.8	4.1	—	7.7	4.5
79	100.0	8.0	27.4	13.9	3.0	33.6	4.3	1.2	3.9	4.7
82	100.0	10.2	30.0	15.3	1.7	25.5	6.4	2.0	3.7	5.2
87	100.0	9.7	28.7	15.0	1.7	25.8	7.4	2.2	3.1	6.3
92	100.0	9.3	25.8	13.1	1.9	27.2	8.2	3.2	2.7	8.4
97	100.0	8.1	27.7	14.8	1.6	24.8	8.9	2.7	2.4	9.1
[45～54歳]										
1977年	100.0	6.4	29.4	11.1	9.5	25.9	2.6	—	11.9	3.1
79	100.0	5.8	26.8	11.1	6.9	38.6	2.5	0.8	3.6	3.8
82	100.0	7.0	31.6	13.3	6.1	28.2	4.6	1.3	3.4	4.5
87	100.0	6.8	32.9	11.4	5.2	27.2	5.2	2.6	3.5	5.1
92	100.0	7.2	25.6	10.7	5.3	31.0	6.1	3.2	3.3	7.3
97	100.0	5.5	29.3	12.2	5.5	28.2	5.6	3.3	2.2	7.8
[55～64歳]										
1977年	100.0	6.2	24.2	6.2	14.1	29.1	3.1	—	13.2	4.0
79	100.0	7.1	22.3	5.9	11.5	40.1	3.0	1.9	3.3	4.8
82	100.0	7.0	22.7	7.7	14.7	30.0	5.1	2.9	3.7	6.2
87	100.0	9.2	25.1	7.6	11.3	27.2	7.1	3.1	2.9	6.8
92	100.0	6.9	23.8	5.9	13.7	30.2	5.7	3.9	3.2	6.2
97	100.0	6.0	26.9	8.8	14.9	26.1	5.4	3.6	1.8	6.4
[65歳以上]										
1977年	100.0	10.5	21.1	5.3	5.3	31.6	2.6	—	18.4	5.3
79	100.0	6.1	22.4	6.1	4.1	46.9	2.0	6.1	2.0	6.1
82	100.0	6.8	25.0	6.8	4.5	34.1	6.8	4.5	4.5	4.5
87	100.0	6.1	30.6	10.2	2.0	26.5	8.2	4.1	2.0	8.2
92	100.0	8.2	19.7	6.6	3.3	34.4	6.6	8.2	3.3	8.2
97	100.0	8.6	27.1	4.3	2.9	31.4	7.1	5.7	2.9	8.6

資料出所 総務庁統計局「就業構造基本調査」

(注) 1)1977年の「家事的都合から」は「家事・健康上の理由から」。

2)1977年は「余暇を増やしたいから」の選択肢はなく、代わりに「活用できる時間があるから」という選択肢があり、その構成比は、年齢計0.2%、15～24歳0.3%、25～34歳0.2%、35～44歳0.2%、45～54歳0.2%、55～64歳0.0%、65歳以上0.0%である。

第73表 「初めての会社」の選択理由別割合

第73表 「初めての会社」の選択理由別割合

(単位 %)

項目	1985年	1997年
計	100.0	100.0
自分の技能・能力が活かせる	—	15.2
仕事の内容・職種 *1)	28.5	34.9
会社の規模・知名度	12.2	6.1
会社の将来性がある *2)	18.7	4.5
社会的意義がある	4.0	1.7
実力主義の会社	2.4	1.1
通勤に便利	—	8.4
賃金の条件がよい	—	5.8
労働時間・休日・休暇の条件がよい	—	6.9
勤務地	11.8	6.7
転勤がない・勤務の地域が限定されている	—	2.2
福利厚生がよい	—	0.8
賃金・労働時間・休日の労働条件のよい会社	18.1	—
その他	3.8	4.5
不明	0.4	1.1

資料出所 労働省「若年者就業実態調査」(1985年、97年)

(注) 1) (正社員として) 初めて会社を選ぶ時に最も重視した条件。

2) 1985年調査と97年調査では、選択肢及び標本からの復元方法が異なっているため、両者の厳密な比較は困難。

3) *1) 1985年は「職種」

4) *2) 1985年は「会社の将来性」

第74表 性,年齢階級別パートタイム労働者等の比率の推移

第74表 性、年齢階級別パートタイム労働者等の比率の推移

(単位 %))

年	年齢計	15～24歳		25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65歳以上
		除学生						
男女計								
1985年	16.2	14.9	6.7	9.8	17.6	17.1	25.3	39.2
86	16.5	15.2	7.1	10.1	17.6	17.5	24.8	45.5
87	17.4	16.1	8.1	10.3	19.3	18.0	25.8	46.2
88	18.1	17.1	8.7	10.6	19.1	19.2	26.7	49.3
89	19.1	20.1	10.3	10.6	19.5	20.2	27.4	47.9
90	20.0	20.3	9.4	11.7	20.9	20.6	29.4	50.6
91	19.7	20.9	9.3	10.9	20.1	20.7	27.9	48.9
92	20.4	20.7	9.3	12.0	20.5	21.0	28.6	50.9
93	20.7	23.2	11.5	12.0	19.7	21.2	28.4	53.8
94	20.2	22.3	10.6	11.8	19.7	20.6	26.9	52.8
95	20.8	26.1	12.9	11.8	20.3	20.8	26.6	49.6
96	21.4	27.5	13.7	12.7	19.8	21.8	27.3	50.4
97	23.1	32.2	17.5	13.9	20.7	22.1	29.0	54.8
98	23.5	34.6	18.3	14.5	20.9	22.2	29.6	52.9
99	24.8	36.6	20.5	16.0	21.7	23.6	30.6	54.9
男性								
1985年	7.2	15.1	4.7	3.2	3.1	5.0	19.2	34.7
86	7.3	16.3	6.1	3.2	3.0	4.9	18.5	45.5
87	7.6	15.1	5.3	3.3	3.5	4.5	20.5	42.9
88	8.0	17.7	6.9	3.5	3.0	4.5	20.4	50.0
89	8.6	20.1	7.4	3.8	3.1	5.2	20.2	46.9
90	8.7	20.0	7.1	3.2	3.3	4.2	22.7	51.0
91	8.4	21.5	8.0	2.8	2.9	3.7	19.4	48.4
92	8.9	20.8	7.8	3.1	2.7	2.9	20.2	53.3
93	9.3	22.5	9.3	3.6	2.8	3.3	19.3	53.2
94	8.4	21.3	7.7	3.0	2.6	2.3	17.6	50.0
95	8.8	23.6	9.2	2.9	2.3	2.9	17.4	48.3
96	9.3	25.2	9.4	4.1	2.9	3.0	17.0	49.4
97	10.4	29.7	12.3	5.1	2.7	3.3	17.8	54.9
98	10.3	31.6	14.9	5.0	2.9	3.2	16.6	51.6
99	11.0	33.8	16.1	6.3	2.6	2.9	18.3	54.1
女性								
1985年	31.9	14.8	8.3	24.3	44.4	37.4	38.1	45.8
86	32.1	14.2	8.5	25.3	43.6	38.3	37.2	45.5
87	34.1	17.0	10.4	25.3	47.0	40.2	37.4	43.5
88	34.9	16.5	10.4	25.6	47.4	42.3	40.5	43.5
89	35.8	19.9	12.9	24.3	48.1	43.2	43.1	50.0
90	37.9	20.6	11.5	28.0	49.5	44.7	44.8	48.1
91	37.1	20.3	10.8	25.3	48.6	46.0	45.0	50.0
92	38.1	20.5	10.8	28.2	48.8	46.8	44.6	48.6
93	38.3	23.6	13.7	27.1	47.1	47.3	45.3	55.3
94	38.1	23.2	13.4	27.4	47.8	46.9	45.2	53.7
95	39.0	28.3	16.3	26.6	48.9	46.8	43.6	48.6
96	39.6	29.9	18.5	27.0	46.9	48.3	48.0	52.8
97	41.6	34.8	22.3	28.0	49.3	48.5	47.6	55.6
98	42.7	37.6	22.1	29.5	49.0	49.0	51.1	55.6
99	45.0	39.6	25.6	31.7	51.8	52.3	51.0	56.8

資料出所 総務庁統計局「労働力調査特別調査」

(注) 1)非農林業についてみたもの。

2)パート、アルバイト、嘱託・その他の和を雇用者(役員を除く)で除したもの。

第75表 都道府県別データを用いた構造的・摩擦的失業率の推計

第75表 都道府県別データを用いた構造的・摩擦的失業率の推計

UV 曲線 ($\ln(u) = \alpha + \beta \cdot \ln(v)$) u: 雇用失業率 v: 欠員率) の推計結果

推計期間	α	(t 値)	β	(t 値)	\bar{R}^2	S.E	構造的・摩擦的失業率	完全失業率
1970年	1.3436	(17.1179)	-0.5473	(-8.2813)	0.60	0.24	1.68%	1.35%
75	1.7670	(20.6152)	-0.8256	(-7.3088)	0.53	0.24	1.91	2.30
80	1.7374	(21.9623)	-0.6359	(-7.1574)	0.52	0.23	2.18	2.48
85	2.0413	(23.7435)	-0.7083	(-7.1671)	0.52	0.23	2.73	3.37
90	2.0560	(10.8887)	-0.5740	(-3.9942)	0.25	0.26	2.89	3.01
95	1.9746	(26.9038)	-0.4665	(-5.7677)	0.41	0.19	3.19	4.29

資料出所 労働省「職業安定業務統計」、総務庁統計局「国勢調査」より労働省労働経済課推計

- (注) 1)1970年は沖縄を除く。
 2)欠員数は年平均。
 3)完全失業率、構造的・摩擦的失業率は「国勢調査」ベース。

第76表 女性の労働力率関数、失業率関数の推計

第76表 女性の労働力率関数、失業率関数の推計

(1)労働力率関数

①1968年1~3月期~75年10~12月期

$$PR = 49.85634 + 1.066085 AR - 0.1635 T1 \quad \bar{R}^2 = 0.95 \quad S.E. = 0.37 \quad D.W. = 1.55$$

(161.9353) (5.186454) (-22.5726)

②1976年1~3月期~98年10~12月期

$$PR = 45.73383 + 0.631153 AR + 0.084611 T2 - 0.00043 T2^2 \quad \bar{R}^2 = 0.91 \quad S.E. = 0.40 \quad D.W. = 0.42$$

(308.5051) (3.32254) (11.33513) (-5.63714)

(2)失業率関数

①1968年1~3月期~75年10~12月期

$$UR = 1.460874 - 0.37699 AR + 0.014367 T1 \quad \bar{R}^2 = 0.86 \quad S.E. = 0.08 \quad D.W. = 1.00$$

(21.1271) (-8.16619) (8.831515)

②1976年1~3月期~98年10~12月期

$$UR = 2.493385 - 1.09547 AR + 0.019799 T2 \quad \bar{R}^2 = 0.86 \quad S.E. = 0.21 \quad D.W. = 0.26$$

(34.27976) (-12.5663) (23.14934)

資料出所 労働省「職業安定業務統計」、総務庁統計局「労働力調査」

- PR: 女性労働力率 (季節調整値 (%))、労働省労働経済課で季節調整を行った
 UR: 女性完全失業率 (季節調整値 (%))、四半期の数値は労働省労働経済課で試算した
 AR: 有効求人倍率 (季節調整値 (倍))
 T1: タイムトレンド (1968年1~3月期=1とし、順次2、3、…)
 T2: タイムトレンド (1976年1~3月期=1とし、順次2、3、…)

(注) 1) ここでは、女性の労働力率、失業率と景気要因 (需給要因、有効求人倍率を使用) との関係が1970年代前半までと1970年代後半以降で変化がみられたかに着目したものであり、景気要因以外のその他の構造変化要因等をタイムトレンドで代用した、非常に単純な関数による推計であり、本関数で女性の労働力率、失業率の変動を説明しきれないものではない点 (特に1970年代後半以降の動き) 留意する必要がある。

2) 女性の労働力率は、1990年代前半以降やや低下しているため、1976年以降の式のタイムトレンドは2次式を用いた。なお、1968年~75年について、2次式のタイムトレンドを用いた場合、2次項は有意とならなかった。有効求人倍率の係数は1次式とほぼ同じ大きさとなった。計測結果は以下のとおり。

$$PR = 49.85882 + 1.126533 AR - 0.17784 T + 0.00045 T^2 \quad \bar{R}^2 = 0.95 \quad S.E. = 0.37 \quad D.W. = 1.55$$

(159.6283) (4.48528) (-5.22713) (0.431652)

3) 1976年以降の労働力率関数及び失業率関数は D.W. 値がかなり低いので、一般化最小二乗法による推計も行った (失業率関数は1968~75年についても行った)。

その結果、有効求人倍率の係数の大きさは、さほど変化がみられなかった。

労働力率関数	0.608283	(1.834471)
失業率関数 (1968~75年)	-0.38825	(-6.09553)
(1976~98年)	-1.1146	(-5.05312)
() 内は t 値		

第77表 女性の就業から失業及び非労働力への流出率の推移

第77表 女性の就業から失業及び非労働力への流出率の推移
(単位 %)

年	就業から 失業	就業から 非労働力
1970年	0.21	3.27
71	0.28	3.23
72	0.26	3.46
73	0.28	4.15
74	0.31	3.89
75	0.28	3.65
76	0.24	3.52
77	0.31	3.12
78	0.27	3.11
79	0.30	3.19
80	0.32	3.20
81	0.30	2.97
82	0.35	2.92
83	0.44	3.18
84	0.32	3.13
85	0.37	3.22
86	0.38	2.89
87	0.36	2.87
88	0.37	2.87
89	0.34	2.75
90	0.39	2.90
91	0.39	2.59
92	0.49	2.62
93	0.57	2.43
94	0.56	2.42
95	0.62	2.37
96	0.63	2.34
97	0.64	2.28
98	0.75	2.42

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」より労働省労働経済課試算
(注) フローデータは労働省労働経済課で修正したものを使用。

第78表 女性配偶者の労働力率関数の推計

第78表 女性配偶者の労働力率関数の推計

$$PR = 49.24033 + 3.895502AR - 0.52592HR \quad \bar{R}^2 = 0.85 \quad S.E. = 0.79 \quad D.W. = 0.97$$

(81.29986) (6.031303) (-9.05128)

計測期間1976～98年 (暦年データ)

資料出所 労働省「職業安定業務統計」、総務庁統計局「労働力調査」「家計調査」

PR 女性配偶者労働力率(%)
AR 有効求人倍率 (倍)
HR 世帯主定期収入前年比(%)

第79表 女性配偶者と女性全体の労働力率の需給感応度の計測

第79表 女性配偶者と女性全体の労働力率の需給感応度の計測

以下の関数を計測し、有効求人倍率の係数 (β) を比較した。

$$\Delta PR = \alpha + \beta \Delta AR$$

計測期間 1976～98年 (暦年データ)

資料出所 労働省「職業安定業務統計」、総務庁統計局「労働力調査」

PR : 労働力率 (%) $\Delta PR = PR - PR_{-1}$ (労働力率の前年差)

AR : 有効求人倍率 (倍) $\Delta AR = AR - AR_{-1}$ (有効求人倍率の前年差)

有効求人倍率の係数	女性配偶者	1.6830 (2.0415)
	女性全体	0.9674 (1.8509)
		() 内は t 値

第80表 大ショック期の生産,雇用,労働投入量の変化率と弾性値

第80表 大ショック期の生産、雇用、労働投入量の変化率と弾性値
(単位 %)

時期	生産	雇用		労働投入量	
		変化率	弾性値	変化率	弾性値
第1次石油危機後	-18.7 (73Ⅳ～75Ⅰ)	-11.0 (73Ⅳ～79Ⅰ)	0.59	-14.1 (73Ⅳ～75Ⅱ)	0.75
バブル崩壊直後	-12.1 (91Ⅰ～93Ⅳ)	-6.2 (92Ⅲ～95Ⅳ)	0.51	-9.5 (91Ⅱ～95Ⅱ)	0.79
今回	-9.4 (97Ⅰ～98Ⅳ)	-5.4 (97Ⅰ～98Ⅳ)	0.57	-7.1 (97Ⅱ～98Ⅳ)	0.76

資料出所 労働省「毎月勤労統計調査」(事業所規模30人以上)
総務庁統計局「労働力調査」、通商産業省「通産統計」
より労働省労働経済課試算

(注) 下段の () 内は計測期間であり、景気後退入り後、減少を始めてから増加傾向に転じるまでの期間をとっている。

第81表 製造業の企業収益の状況

第81表 製造業の企業収益の状況

年	売上高経常利益率		経常利益(1995年=100)		赤字企業比率	
	前年差		前年比		当期	2期連続
	(%)	(%ポイント)	(%)	(%)	(%)	(%)
1973年	5.90	1.88	51.5	74.9	6.0	4.0
74	3.45	-2.45	36.8	-28.5	13.7	1.6
75	1.32	-2.13	14.5	-60.7	34.1	11.0
76	2.82	1.50	36.0	148.4	24.7	18.5
77	2.94	0.12	41.1	14.2	24.0	16.2
78	3.52	0.58	50.6	23.1	15.3	11.5
79	4.54	1.01	74.6	47.4	7.2	5.2
80	4.10	-0.43	80.3	7.7	8.2	4.3
81	3.24	-0.86	68.0	-15.3	14.9	5.9
82	3.33	0.10	70.4	3.6	17.6	10.6
83	3.29	-0.04	72.1	2.4	17.4	11.1
84	3.94	0.65	95.0	31.7	10.2	7.9
85	3.85	-0.09	98.5	3.6	10.8	5.4
86	3.21	-0.64	77.1	-21.7	15.6	6.2
87	4.06	0.85	101.5	31.6	7.9	6.4
88	4.95	0.89	136.6	34.6	3.3	1.9
89	5.40	0.45	159.5	16.7	3.5	1.9
90	4.88	-0.52	155.5	-2.5	5.3	2.0
91	4.11	-0.77	137.3	-11.7	8.3	4.0
92	2.88	-1.23	92.6	-32.6	16.5	6.5
93	2.29	-0.59	70.8	-23.5	23.5	12.8
94	2.67	0.38	83.5	17.9	18.7	14.3
95	3.05	0.38	100.0	19.8	13.7	10.3
96	3.50	0.45	121.4	21.4	10.4	6.8
97	3.77	0.27	134.1	10.5	13.7	6.6
98	2.73	-1.04	90.5	-32.6	21.6	8.2

資料出所 大蔵省「法人企業統計季報」、日本開発銀行「企業財務データ」
日本経済新聞社調べ(1999年3月8日付け朝刊)

(注) 赤字企業比率については年度単位。

第82表 雇用過不足感の変動要因

第82表 雇用過不足感の変動要因

被説明変数	説明変数				
	定数項	労働生産性	業況予測	\bar{R}^2	D.W.
雇用人員 判断 D.I.	4.529	-2.600		0.625	0.130
	(3.953)	(-12.614)			
	0.132	-1.325	-0.400	0.675	0.168
	(0.086)	(-3.517)	(-3.995)		

資料出所 労働省「毎月勤労統計調査」(事業所規模30人以上)、
総務庁統計局「労働力調査」、通商産業省「通産統計」
日本銀行「全国企業短期経済観測調査」より労働省労働経済課推計

(注) 1) 計測期間：1975年1～3月期から1998年10～12月期
2) 労働生産性の試算方法については、第1-(3)-3図参照。
3) 業況予測は、業況判断D.I.の先行きの値。

第83表 新規事業展開における進出分野

第83表 新規事業展開における進出分野

(単位 %))

分野	過去5年	今後5年
バイオテクノロジー	2.3	1.8
新製造技術関連	7.9	5.4
情報・通信	18.4	14.5
エンジニアリング	5.1	4.7
新エネルギー	1.3	1.3
都市環境整備関連	2.1	2.8
住宅	7.8	5.8
物流	9.3	6.9
教育・レジャー関連	12.5	9.9
医療・福祉関連	15.0	16.4
食糧	7.4	5.0
環境	7.1	9.1
ビジネス支援	10.9	12.8
その他の分野	23.7	16.5
無回答	6.5	17.4

資料出所 日本労働研究機構「企業の事業展開と雇用に関する実態調査」(1999年)

(注) 1) 3つまで複数回答。

2) 分野の括り方は以下のとおり。

「新製造技術関連」：新素材、ファイン・ケミカル

「都市環境整備関連」：新都市交通、都市開発

「医療・福祉関連」：医療、介護・老人福祉、育児・保育

「教育・レジャー関連」：教育、健康、レジャー

「その他の分野」：「航空・宇宙」、「原子力」、「海洋開発」、
「軍備・防衛」を含む。

第84表 雇用者数の推移(運輸業,中分類)

第84表 雇用者数の推移 (運輸業、中分類)

(単位 人、%)

年	運輸業計 (伸び率)								
	鉄道業	道路旅客運送業	道路貨物運送業	水運業	航空運輸業	倉庫業	運輸付帯サービス業		
1985年	2,737,858	403,357	607,903	1,112,080	134,228	41,312	92,832	346,146	
90	2,902,135 (6.0)	298,618	579,494	1,358,689	115,912	51,915	117,535	379,972	
95	3,107,200 (7.1)	294,900	573,400	1,501,400	105,400	56,300	145,300	430,500	

資料出所 総務庁統計局「国勢調査」

(注) 1995年は速報値。

第85表 事業形態別の電気通信業従業者数の推移(前年差)

第85表 事業形態別の電気通信業従業者数の推移 (前年差)

(単位 人)

事業形態	1993年度	94年度	95年度	96年度
電気通信業	-7,019	-17,622	-1,497	9,648
第1種電気通信事業	-16,735	-20,879	-9,286	-3,172
NTT・KDD				
通信事業	6,717	4,361	2,998	1,714
NCC				
第2種電気通信事業	2,999	-1,104	4,791	10,911

資料出所 郵政省「通信産業実態調査」

(注) 1) 1996年度は第2種電気通信事業について調査対象を変更しているため、参考値。

2) NCCは、NTT・KDD以外の第1種電気通信事業への新規参入者。

第86表 業態別従業者数の推移(小売業)

第86表 業態別従業者数の推移（小売業）

(1985年=100)

年	百貨店	総合スーパー	専門スーパー	コンビニエンスストア	その他のスーパー	専門店	その他の商品小売店	その他
1985年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
88	102.2	105.4	110.1	147.0	99.8	107.3	108.2	76.2
91	109.7	115.4	119.7	170.9	109.6	108.6	101.9	117.7
94	108.7	140.5	168.0	235.9	128.2	111.5	101.5	8.0
97	98.7	156.0	352.2	195.4	145.1	103.0	93.7	106.4

資料出所 通商産業省「商業統計」

第87表 卸売・小売業・飲食店におけるパート、アルバイト比率

第87表 卸売・小売業、飲食店におけるパート、アルバイト比率

(単位 %)

産業・年	パート・アルバイト比率
(1)卸売・小売業, 飲食店	
1982年	21.6
87	27.9
92	31.4
97	38.1
(2)小売業	
総合スーパー	68.9
コンビニエンスストア	80.2
(3)飲食店	
ファミリーレストラン	85.4

資料出所 (1) 総務庁統計局「就業構造基本調査」、
 (2) 労働省「産業労働事情調査」(1996年)、
 (3) 社団法人日本フードサービス協会調べ(1999年)
 (注) 1) (1) については役員を除く雇用者について算出したもの。
 2) (2) については臨時を含む。
 3) (3) については、社団法人日本フードサービス協会会員企業における数値。

第88表 産業別企業規模別雇用者構成比の推移

第88表 産業別企業規模別雇用者構成比の推移

(単位 %))

年	建設業	製造業	卸売・小売業, 飲食店	金融・保険, 不動産業	運輸・通信業	サービス業
(大規模)						
1985年	9.8	26.4	14.1	60.1	40.1	9.9
90	8.7	26.0	15.9	57.7	35.4	10.8
95	9.6	26.7	16.5	56.0	32.4	11.4
96	9.5	26.3	16.1	54.5	31.5	11.0
97	9.1	26.2	16.3	53.2	29.9	10.6
98	9.1	26.2	17.3	53.0	29.0	10.8
(中堅規模)						
1985年	11.5	27.2	20.4	19.2	24.4	25.0
90	11.3	27.7	22.2	18.8	25.7	27.5
95	12.7	28.2	23.6	19.9	26.8	28.7
96	11.8	28.4	23.6	20.9	27.7	29.2
97	11.6	28.8	24.0	21.0	27.9	30.1
98	11.3	29.0	24.3	21.2	27.8	30.0
(中小規模)						
1985年	78.8	46.5	65.5	20.7	35.5	65.1
90	80.0	46.3	62.0	23.4	38.9	61.7
95	77.8	45.1	59.9	24.1	40.7	59.9
96	78.7	45.3	60.3	24.7	40.8	59.9
97	79.3	45.1	59.7	25.8	42.2	59.3
98	79.5	44.8	58.4	25.8	43.2	59.2

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」より労働省労働経済課試算
(注) 官公は除く。

第89表 企業規模別雇用者構成比等の推移(卸売業,小売業,飲食店)

第89表 企業規模別雇用者構成比等の推移（卸売業、小売業、飲食店）
（単位：%、万人）

年	企業規模別雇用者数			自営業主数
	中小規模	中堅規模	大規模	
(卸売業)				
1985年	60.5	25.1	14.4	234
90	58.1	26.9	15.1	212
95	55.8	28.2	16.0	190
96	56.9	28.3	14.8	187
97	57.0	28.8	14.2	188
98	55.2	29.3	15.4	185
(小売業)				
1985年	64.0	19.2	16.8	234
90	60.3	20.8	18.8	212
95	58.6	22.7	18.8	190
96	58.4	22.9	18.7	187
97	57.3	23.3	19.4	188
98	56.2	23.4	20.3	185
(飲食店)				
1985年	84.0	11.5	4.6	234
90	78.1	13.9	7.9	212
95	74.9	15.2	9.9	190
96	75.6	14.8	9.7	187
97	73.6	15.9	10.4	188
98	72.2	16.6	11.2	185

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」から労働省労働経済課試算

第90表 職業別雇用者数の推移

第90表 職業別雇用者数の推移

(単位 万人、%)

年	ホワイト カラー比率	ホワイトカラー人数				ブルー カラー比率	ブルーカラー人数			
		専門的・ 技術的職 業従事者	管理的 職業 従事者	事務 従事者	販売 従事者		保安職業 サービス職 業従事者	農林漁 業作業 者	運輸・ 通信従 事者	採掘作業、技能 工、製造・建設作 業者及び事務作業 者
1985年	50.8	451	207	954	581	49.0	342	38	210	1523
90	53.7	594	234	1088	680	46.1	384	39	216	1589
95	54.2	691	232	1194	738	45.6	466	40	221	1672
96	54.1	703	235	1205	737	45.6	477	41	223	1688
97	53.8	722	221	1214	745	45.9	496	39	225	1714
98	54.5	736	217	1233	740	45.2	504	39	216	1665

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」

第91表 産業、職業別就業者数の推移

第91表 産業、職業別就業者数の推移

(単位 万人、%)

産業・年	ホワイト カラー比率	ホワイトカラー人数				ブルー カラー比率	ブルーカラー人数			
		専門的・ 技術的職 業従事者	管理的 職業従 事者	事務 従事者	販売 従事者		保安職業 サービス職 業従事者	農林漁 業作業 者	運輸・ 通信従 事者	採掘作業 者、技能 工、製造・建設作 業者及び労務作業 者
(建設業)										
1985年	23.8	10	28	70	18	76.2	2	1	12	389
90	28.7	29	34	84	22	71.3	2	2	12	403
95	30.2	43	35	93	29	69.7	2	2	11	447
96	30.3	43	36	95	29	69.6	2	2	12	450
97	29.9	41	35	98	31	69.9	2	2	11	464
98	31.0	43	35	96	31	69.2	2	2	11	443
(製造業)										
1985年	24.7	41	56	187	75	75.2	7	0	15	1070
90	27.5	71	60	204	79	72.4	5	1	13	1071
95	31.3	87	57	214	97	68.8	5	1	11	985
96	31.5	90	57	210	98	68.5	5	0	11	974
97	31.3	92	53	206	101	68.5	5	0	11	972
98	31.8	92	51	202	94	68.2	4	0	11	928
(運輸・通信業)										
1985年	34.7	3	14	92	10	65.0	4	0	162	57
90	36.3	5	16	99	16	64.3	5	0	173	63
95	36.1	8	17	101	19	64.2	7	0	179	72
96	36.3	7	17	106	19	63.7	6	0	181	75
97	36.3	7	17	106	19	63.7	6	0	181	75
98	36.3	5	15	106	21	63.5	8	0	176	73
(卸売・小売業、飲食店)										
1985年	69.7	13	52	207	646	30.3	204	0	12	183
90	69.8	18	56	233	681	30.2	210	1	10	207
95	67.0	20	53	252	646	33.0	240	1	9	228
96	66.6	22	55	263	634	33.4	244	1	9	234
97	66.0	21	51	267	634	34.1	250	1	9	243
98	65.4	22	50	272	626	34.6	258	0	8	247
(サービス業)										
1985年	64.1	453	33	233	33	35.9	212	4	18	187
90	65.7	547	42	287	40	34.3	244	6	19	209
95	65.6	607	42	327	51	34.4	280	6	19	234
96	65.4	618	43	332	52	34.5	285	6	20	241
97	65.1	639	41	339	54	35.0	296	6	21	253
98	65.3	655	41	352	53	34.7	308	7	21	248

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」

第92表 事業所の新設,既存,廃止別従業者数の増減寄与度(年平均伸び率)

第92表 事業所の新設、既存、廃止別従業者数の増減寄与度（年平均伸び率）

(産業計) (単位 %)

年	増減率	新規	既存	廃止
1969～72年	3.56	4.74	1.74	-3.10
72～75	0.73	3.75	0.17	-3.11
75～78	2.23	3.51	1.11	-2.32
78～81	2.70	3.81	1.59	-2.69
81～86	1.42	3.65	1.28	-3.51
86～91	2.35	3.58	2.05	-3.28
91～96	0.93	2.93	1.31	-3.34

(製造業) (単位 %)

年	増減率	新規	既存	廃止
1969～72年	1.88	3.20	1.53	-3.00
72～75	-1.59	2.17	-0.73	-2.95
75～78	-0.41	1.68	0.30	-2.33
78～81	0.94	2.04	1.12	-2.21
81～86	0.74	2.31	1.38	-2.94
86～91	1.12	2.17	1.86	-2.91
91～96	-1.65	1.15	0.58	-3.40

(卸売・小売業, 飲食店) (単位 %)

年	増減率	新規	既存	廃止
1969～72年	4.26	6.14	1.48	-3.54
72～75	1.82	5.04	0.54	-3.69
75～78	3.32	5.37	1.05	-3.03
78～81	3.18	5.46	1.66	-3.93
81～86	1.11	4.56	1.05	-4.51
86～91	1.53	4.00	1.97	-4.43
91～96	1.58	4.22	1.83	-4.51

(サービス業) (単位 %)

年	増減率	新規	既存	廃止
1969～72年	4.70	5.42	2.32	-3.26
72～75	3.09	4.41	1.47	-2.71
75～78	4.47	3.95	2.61	-2.00
78～81	5.28	4.49	2.83	-2.03
81～86	3.85	4.67	1.90	-2.72
86～91	4.96	4.86	2.77	-2.68
91～96	3.01	3.62	2.04	-2.68

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」より労働省労働経済課試算

(注) 1) 試算方法は付注-9参照。

2) 増減率には開設時期不詳の事業所分を含む。

第93表 新設事業所従業者数と1事業所当たり平均従業者数

第93表 新設事業所従業者数と1事業所当たり平均従業者数

(単位 人)

産業	新設事業所計	新規企業		既存事業所	
		従業者数	1事業所平均	従業者数	1事業所平均
計	1,690,131	882,479	6.2	807,652	12.7
建設業	133,551	87,957	8.4	45,594	12.1
製造業	169,919	96,641	11.2	73,278	21.5
運輸・通信業	94,102	35,784	13.5	58,318	21.9
卸売・小売, 飲食店	750,246	358,212	5.0	392,034	11.2
金融・保険業	49,248	10,577	8.3	38,670	17.2
不動産業	31,222	22,261	3.3	8,962	7.4
サービス業	457,658	270,204	6.5	187,454	12.3

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」(1996年)

- (注) 1) 民営事業所についてみたもの。
2) 各調査月を考慮。
3) 従業者数は年平均の数値。

第94表 新設事業所の開業率

第94表 新設事業所の開業率

(単位 %)

産業	1982～86年			1987～91年			1992～96年		
	開業率			開業率			開業率		
	新規企業	事業拡大		新規企業	事業拡大		新規企業	事業拡大	
計	4.5	3.5	1.0	4.0	2.9	1.1	3.2	2.2	1.0
建設業	3.1	2.5	0.6	3.0	2.4	0.6	2.2	1.6	0.6
製造業	3.1	2.5	0.6	2.9	2.1	0.8	1.5	1.1	0.4
運輸・通信業	4.2	2.3	1.9	4.0	1.9	2.1	3.2	1.6	1.6
卸売・小売, 飲食店	5.1	3.9	1.2	4.1	3.0	1.1	3.7	2.5	1.2
金融・保険業	5.7	2.1	3.6	4.7	1.6	3.1	3.3	1.2	2.1
不動産業	4.2	3.7	0.5	4.7	4.0	0.7	2.7	2.3	0.4
サービス業	4.8	3.8	1.0	4.3	3.2	1.1	3.4	2.5	0.9

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」を労働省政策調査部にて特別集計

- (注) 1) 開業率=各調査期間中に開業した事業所数/事業所総数
(各調査月を考慮している。)
2) 民営事業所についてみたもの。
3) 年平均の数値。
4) 新規企業とは、新設事業所のうち単独事業所及び本所・本社・本店事業所のこと。
5) 事業拡大とは、新設事業所のうち支所・支社・支店事業所のこと。

第95表 新設事業所の雇用創出率

第95表 新設事業所の雇用創出率

(単位 %)

産業	1982～86年			1987～91年			1992～96年		
	雇用創出率			雇用創出率			雇用創出率		
	新規企業	事業拡大		新規企業	事業拡大		新規企業	事業拡大	
計	3.8	2.3	1.5	3.5	2.0	1.5	2.9	1.5	1.4
建設業	3.0	2.2	0.8	3.1	2.3	0.8	2.3	1.5	0.8
製造業	2.4	1.5	0.9	2.2	1.3	0.9	1.4	0.8	0.6
運輸・通信業	4.0	1.3	2.7	3.6	1.2	2.4	2.7	1.0	1.7
卸売・小売、飲食店	4.8	2.9	1.9	4.1	2.2	1.9	4.1	2.0	2.1
金融・保険業	3.3	0.6	2.7	3.5	0.6	2.9	2.5	0.5	2.0
不動産業	5.0	3.9	1.1	5.5	4.1	1.4	3.4	2.4	1.0
サービス業	4.3	2.9	1.4	4.3	2.6	1.7	3.4	2.0	1.4

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」を労働省政策調査部にて特別集計

- (注) 1) 民営事業所についてみたもの。
 2) 各調査月を考慮。
 3) 年平均の数値。
 4) 新規企業とは、新設事業所のうち単独事業所及び本所・本社・本店事業所のこと。
 5) 事業拡大とは、新設事業所のうち支所・支社・支店事業所のこと。

第96表 親会社の有無別にみた企業規模(新規企業)

第96表 親会社の有無別にみた企業規模 (新規企業)

(単位 %, 人)

産業	子会社企業				独立企業			
	企業割合	新設企業 従業者数	従業者 割合	1企業当 たり平均 従業者数	企業割合	新設企業 従業者数	従業者 割合	1企業当 たり平均 従業者数
計	8.8	211,992	25.3	59.6	91.2	627,243	74.7	17.1
建設業	5.7	13,051	13.8	31.9	94.3	81,704	86.2	12.1
製造業	11.8	34,989	23.9	63.4	88.2	111,192	76.1	27.0
運輸・通信業	15.3	23,018	37.4	100.8	84.7	38,455	62.6	30.3
卸売・小売、飲食店	9.0	79,097	25.6	61.3	91.0	229,890	74.4	17.7
金融・保険業	13.1	4,428	20.6	55.5	86.9	17,057	79.4	32.3
不動産業	6.3	5,437	25.6	30.2	93.7	15,767	74.4	5.9
サービス業	8.9	51,303	27.9	63.6	91.1	132,558	72.1	16.0

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」(1996年)を労働省政策調査部にて特別集計

(注) 民営事業所についてみたもの

第97表 雇用形態別労働者数の伸び(前年同期比)

第97表 雇用形態別労働者数の伸び（前年同期比）

（単位 %）

産業	常用労働者	一般労働者	パート労働者
計	-2.1	-2.6	2.7
建設業	-5.6	-5.6	-4.5
製造業	-2.3	-2.3	-2.2
運輸・通信業	-4.2	-4.8	5.0
卸売・小売, 飲食店	-3.6	-6.5	4.9
金融・保険業	-0.2	-0.4	2.2
不動産業	0.5	-0.6	13.5
サービス業	0.5	0.1	4.8

資料出所 労働省「雇用動向調査」(1998年上期)を労働省政策調査部にて特別集計

第98表 就業形態別の雇用増減の組み合わせに基づいた類型別事業所割合

第98表 就業形態別の雇用増減の組み合わせに基づいた類型別事業所割合

（単位 %）

産業	一般増	一般増	一般減	一般減
	パート増	パート減	パート増	パート減
計	18.6	27.2	12.7	41.5
建設業	7.0	34.7	4.8	53.4
製造業	19.8	23.5	11.7	45.0
運輸・通信業	16.3	26.3	9.6	47.9
卸売・小売, 飲食店	18.3	25.7	19.3	36.7
金融・保険業	25.8	20.7	9.8	43.7
不動産業	19.4	24.9	6.6	49.2
サービス業	21.6	31.7	14.3	32.5

資料出所 労働省「雇用動向調査」(1998年上期)を労働省政策調査部にて特別集計

第99表 事業所類型別にみた一般労働者の増減寄与度

第99表 事業所類型別にみた一般労働者の増減寄与度

(1) 増加事業所 (単位 %)

産業	一般増 パート増	一般増 パート減	一般減 パート増	労働者数 増減率
計	2.8	3.9	-0.5	6.2
建設業	0.5	6.3	-0.1	6.7
製造業	2.8	3.2	-0.2	5.8
運輸・通信業	2.2	4.7	-0.6	6.3
卸売・小売、飲食店	3.7	1.9	-1.5	4.1
金融・保険業	6.0	6.0	-0.7	11.3
不動産業	7.7	6.5	0.0	14.2
サービス業	2.6	4.1	-0.3	6.4

(2) 減少事業所 (単位 %)

産業	一般増 パート減	一般減 パート増	一般減 パート減	労働者数 増減率
計	0.2	-1.7	-8.1	-9.6
建設業	0.0	-0.5	-11.6	-12.1
製造業	0.1	-1.4	-5.9	-7.2
運輸・通信業	0.1	-1.5	-10.6	-12.0
卸売・小売、飲食店	0.6	-3.8	-12.6	-15.8
金融・保険業	0.2	-0.8	-10.8	-11.4
不動産業	0.0	-1.1	-9.4	-10.5
サービス業	0.2	-2.1	-6.5	-8.4

資料出所 労働省「雇用動向調査」(1998年上期)を労働省政策調査部にて特別集計

第100表 企業の経営戦略

第100表 企業の経営戦略

(単位 %)

項目		過去5年間	今後5年間
本業の充実・強化	既存の商品・サービスの売上の拡大、 新商品・新サービス開発	67.4	61.6
	既存の高付加価値分野等に特化し商品 構成を再編成	18.5	28.8
新規事業展開	本業に密接に関連した分野	34.2	38.4
	それ以外の分野	7.5	8.4

資料出所 日本労働研究機構「企業の事業展開と雇用に関する実態調査」(1999年)

(注) 複数回答である。

第101表 新規事業展開の理由(今後5年間)

第101表 新規事業展開の理由（今後5年間）

(単位 %)

産業・進出先分野	既存事業の需要の伸びが今後期待できない	需要の急成長が見込まれる分野がある	既存の技術・知識の他分野への応用が可能	既存事業の競争激化・競争力の低下
計	31.4	33.2	38.8	17.3
建設業	38.0	28.0	44.0	18.0
製造業	32.1	29.2	47.6	15.5
電気・ガス・熱供給・水道業	0.0	0.0	100.0	0.0
運輸・通信業	48.6	25.7	34.3	20.0
卸売・小売、飲食店	29.5	30.3	27.0	23.8
金融・保険業、不動産業	0.0	55.2	27.6	20.7
サービス業	30.9	41.7	38.2	15.2
情報・通信分野	34.4	42.2	42.2	15.6
医療・福祉関連分野	22.7	62.1	37.9	19.7
教育・レジャー関連分野	27.6	31.0	62.1	13.8
ビジネス支援分野	24.4	31.7	46.3	12.2

(単位 %)

産業・進出先分野	資金の活用	関連企業、取引先からの要請	余剰労働力の活用	その他	無回答
計	0.9	6.3	5.8	2.7	19.4
建設業	0.0	2.0	0.0	2.0	24.0
製造業	0.7	5.2	4.1	0.7	21.8
電気・ガス・熱供給・水道業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸・通信業	1.4	12.9	10.0	2.9	10.0
卸売・小売、飲食店	0.0	8.2	8.2	3.3	18.0
金融・保険業、不動産業	0.0	6.9	17.2	10.3	17.2
サービス業	1.5	4.9	4.9	3.4	16.7
情報・通信分野	0.0	7.8	3.1	0.0	9.4
医療・福祉関連分野	0.0	4.5	3.0	6.1	1.5
教育・レジャー関連分野	3.4	10.3	3.4	13.8	0.0
ビジネス支援分野	0.0	7.3	17.1	2.4	12.2

資料出所 日本労働研究機構「企業の事業展開と雇用に関する実態調査」(1999年)

(注) 計には「無回答」を含む。

第102表 企業組織面での対応策

第102表 企業組織面での対応策

企業規模	既存部門の再編成		部門の新設		子会社の設立	
	過去5年間	今後5年間	過去5年間	今後5年間	過去5年間	今後5年間
計	36.1	49.2	63.7	50.3	22.4	17.4
1,000人以上	37.2	54.0	64.3	48.5	31.1	28.3
500~999人	43.4	56.1	67.1	54.5	19.1	13.8
100~499人	29.7	44.2	62.2	50.7	17.4	12.3

(単位 %)

企業規模	対策を講じていない		無回答	
	過去5年間	今後5年間	過去5年間	今後5年間
計	3.3	6.5	5.9	9.4
1,000人以上	3.1	4.5	5.1	7.6
500~999人	3.5	7.9	5.8	6.9
100~499人	3.5	5.8	5.8	10.3

資料出所 日本労働研究機構「企業の事業展開と雇用に関する実態調査」(1999年)

(注) 1)複数回答(該当するもの全て)

2)計には「無回答」等を含む。

3)調査は従業員数100人以上企業を対象に実施したが、実際には100人未満企業からも回答を得たため、合計に含めている。

第103表 過去5年間の新規事業に従事する従業員数の割合

第103表 過去5年間の新規事業に従事する従業員数の割合（企業全体）

(単位 %)

産業	5%未満	5～10%未満	10～15%未満	15～25%未満	25～50%未満	50%以上	無回答
計	53.3	20.1	8.5	5.4	3.0	1.7	8.1
建設業	65.2	6.5	13.0	4.3	2.2	—	8.7
製造業	47.5	23.6	12.0	6.6	2.5	2.1	5.8
運輸・通信業	43.9	28.8	6.1	6.1	3.0	—	12.1
卸売・小売、飲食店	68.5	17.7	2.4	2.4	2.4	1.6	4.8
金融・保険、不動産業	68.0	12.0	4.0	—	4.0	4.0	8.0
サービス業	49.4	19.8	9.9	6.4	4.1	2.3	8.1

資料出所 日本労働研究機構「企業の事業展開と雇用に関する実態調査」(1999年)

(注) 計には「無回答」等を含む。

第104表 過去5年間の新規事業展開に従事する従業員数の今後5年以内の見通し(企業全体)

第104表 過去5年間の新規事業展開に従事する従業員数の今後5年以内の見通し(企業全体)

(単位 %)

企業規模	増加する	変わらない	減少する	わからない	無回答
計	44.5	29.3	9.6	8.6	7.9
1,000人以上	51.0	23.5	8.7	10.7	6.1
500～999人	43.4	32.9	6.9	9.2	7.5
100～499人	42.1	31.7	12.4	5.8	8.1

資料出所 日本労働研究機構「企業の事業展開と雇用に関する実態調査」(1999年)

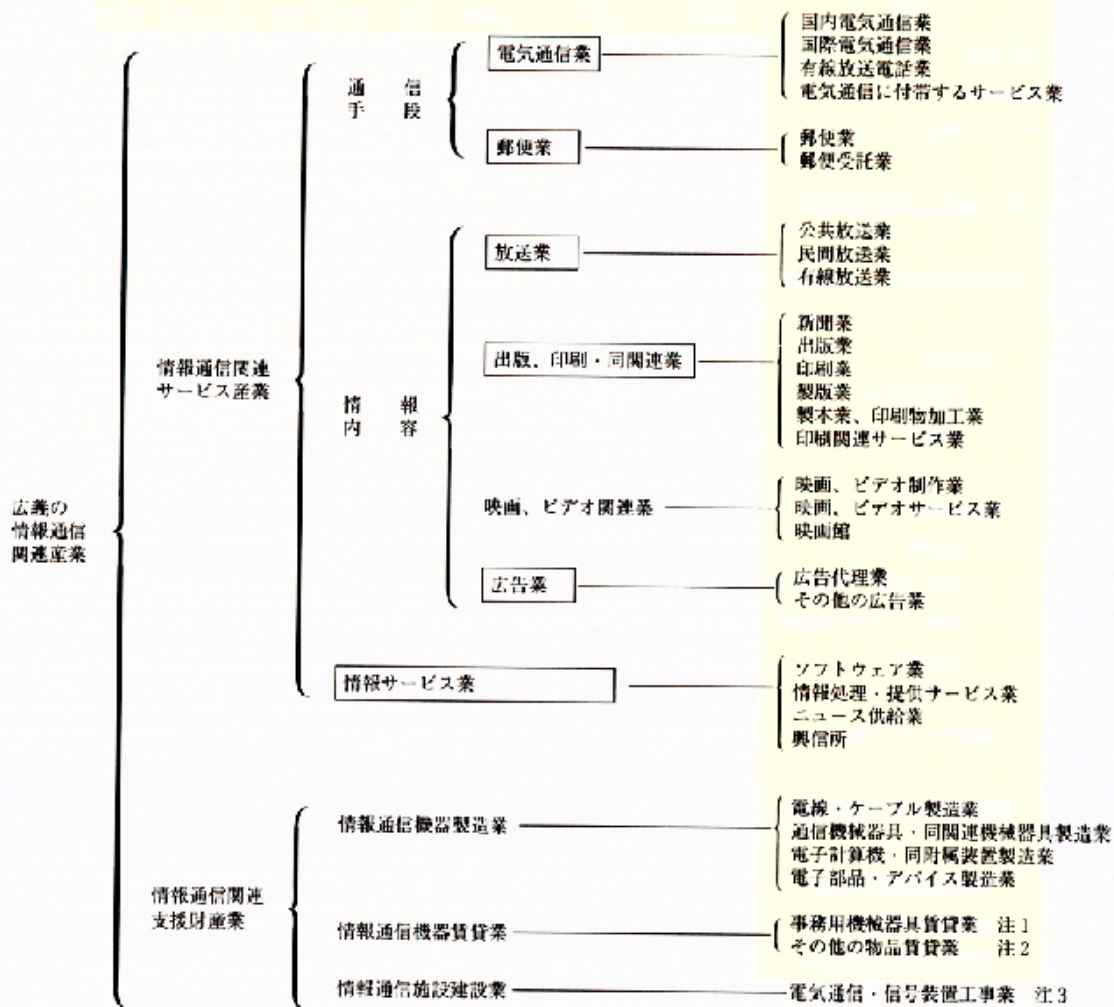
(注) 1)計には「無回答」等を含む。

2)調査は従業員数100人以上企業を対象に実施したが、実際には100人未満企業からも回答を得たため、合計には含めている。

第105表 広義の情報通信関連産業の範囲と構成

第105表 広義の情報通信関連産業の範囲と構成

日本標準産業小分類ベースでの該当項目



資料出所 郵政省「通信に関する現状報告」

- (注) 1)事務用機械器具賃貸業の中には、電子計算機・同関連機器賃貸業の他に広義の情報通信関連産業に含まない会計機械やコピー機などの事務用機械器具賃貸業も含む。
 2)その他の物品賃貸業の中には、音楽・映像記録物賃貸業の他に広義の情報通信関連産業に含まない貸し衣装業なども含む。
 3)電気通信・信号装置工事業の中には、電気通信工事業などの他に広義の情報通信関連産業に含まない信号装置工事業も含む。
 4)「情報サービス業」は「情報サービス・調査業」をいう。

第106表 広義の情報通信関連産業の従業者数の構成変化

第106表 広義の情報通信関連産業の従業者数の構成変化

(単位 %、%ポイント)

産業	構成比			5年間での伸び率		
	1986年	1991年	1996年	1981~86年	1986~91年	1991~96年
全産業計	100.00	100.00	100.00	5.5	10.4	4.6
製造業計	24.56	23.49	20.60	3.5	5.6	-8.3
サービス業計	22.37	24.35	26.30	15.2	20.2	12.9
広義の情報通信関連産業計	6.20	6.73	6.16	18.1	19.9	-4.2
情報通信関連サービス産業	3.49	3.98	3.73	12.9	26.0	-2.1
通信手段	1.08	1.00	0.96	-6.8	2.6	0.4
電気通信業	0.53	0.43	0.35	-14.3	-10.2	-14.6
郵便業	0.55	0.57	0.61	1.7	14.7	11.7
情報内容	1.74	1.85	1.72	9.5	17.0	-2.7
放送業	0.11	0.11	0.11	5.7	10.0	10.4
出版、印刷・同関連業	1.34	1.37	1.26	7.9	13.0	-3.7
映画、ビデオ関連業	0.09	0.10	0.10	16.2	21.9	12.4
広告業	0.21	0.27	0.24	20.2	44.1	-8.0
情報サービス業	0.67	1.13	1.05	96.0	87.8	-3.5
情報通信関連支援財産業	2.71	2.75	2.44	25.6	12.0	-7.2
情報通信機器製造業	2.37	2.32	2.00	26.5	7.9	-9.6
情報通信機器賃貸業	0.15	0.23	0.21	65.7	72.3	-2.6
情報通信施設建設業	0.19	0.20	0.22	-1.4	17.0	14.8

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」

(注) 「情報サービス業」は「情報サービス・調査業」をいう。

第107表 広義の情報通信関連産業の常用労働者の伸び

第107表 広義の情報通信関連産業の常用労働者の伸び

(単位 %))

産業	前年比	
	1997年	1998年
調査産業計	0.9	0.2
製造業	-0.5	-1.2
サービス業	2.3	2.1
通信業	2.9	0.7
出版・印刷・同関連産業	-0.3	0.3
情報サービス・調査業、広告業	3.3	10.0
電線・ケーブル製造業	-2.7	-4.8
通信機械器具・同関連機械器具製造業	-1.6	-1.4
電子計算機・同付属装置製造業、電子応用装置製造業	-1.6	-1.2
電子部品・デバイス製造業	-1.2	-0.2

資料出所 労働省「毎月勤労統計調査」

(注) 1)事業所規模5人以上。

2)通信業は、郵便業と電気通信業の合計である。

3)調査産業計、製造業、サービス業、通信業、出版・印刷・同関連産業及び情報サービス・調査業、広告業は常用雇用指数の前年比である。

4)電線・ケーブル製造業、通信機械器具・同関連機械器具製造業、電子計算機・同付属装置製造業、電子応用装置製造業及び電子部品・デバイス製造業は、年平均労働者数の前年比である。

第108表 産業、性別従業者数構成の変化

第108表 産業、性別従業者数構成の変化

(単位 %)

年・産業	構成比		伸び		
	男性	女性	男女計	男性	女性
(1986年)					
産業計	60.9	39.1	5.5	-	-
製造業	62.5	37.5	3.5	-	-
サービス業	51.2	48.8	15.2	-	-
電気通信業	75.3	24.7	-14.3	-	-
放送業	81.2	18.8	5.7	-	-
広告業	71.3	28.7	20.2	-	-
情報サービス業	68.2	31.8	96.0	-	-
(1991年)					
産業計	59.6	40.4	10.4	8.0	14.2
製造業	62.7	37.3	5.6	5.9	5.1
サービス業	50.7	49.3	20.2	18.9	21.5
電気通信業	76.3	23.7	-10.2	-9.0	-13.6
放送業	78.0	22.0	10.0	5.6	28.0
広告業	65.7	34.3	44.1	32.8	72.1
情報サービス業	68.6	31.4	87.8	88.9	85.4
(1996年)					
産業計	59.0	41.0	4.6	3.6	6.1
製造業	64.5	35.5	-8.3	-5.7	-12.7
サービス業	53.9	51.0	13.0	20.1	16.7
電気通信業	72.6	27.4	-14.6	-18.7	-1.2
放送業	75.4	24.6	10.4	6.6	23.6
広告業	66.1	33.9	-8.0	-7.5	-8.9
情報サービス業	71.9	28.1	-3.5	1.1	-13.5

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」

(注) 「情報サービス業」は「情報サービス・調査業」をいう。

第109表 職種別構成比

第109表 職種別構成比

(単位 %)

職業	産業計	製造業	サービス業	電気通信業	放送業	広告業	情報サービス業
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
専門的・技術的職業従事者	12.8	6.2	39.4	8.3	32.9	15.6	58.9
うち、情報処理技術者	(0.9)	-	-	-	-	-	(55.3)
うち、文芸家、記者、編集者	(0.2)	-	-	-	(4.0)	(2.7)	-
うち、美術家、写真家、デザイナー	(0.4)	-	-	-	(4.0)	(10.0)	-
うち、音楽家、舞台芸術家	(0.3)	-	-	-	(17.0)	(0.7)	-
管理的職業従事者	4.5	4.9	3.3	3.1	6.9	9.4	5.9
事務的職業従事者	19.4	15.1	20.1	45.1	29.9	29.4	27.0
うち、一般事務従事者	(18.4)	(14.6)	(18.9)	(40.6)	(27.7)	(28.2)	(17.8)
うち、せん孔機及び電子計算機等操作員	(0.4)	-	-	-	-	-	(8.6)
販売従事者	14.4	5.3	3.3	15.5	12.4	29.1	5.9
サービス職業従事者	8.0	0.2	16.7	0.2	1.0	9.1	0.2
うち、広告宣伝員	(0.1)	-	-	-	-	(8.7)	-
運輸・通信従事者	3.8	0.9	1.3	11.0	12.4	0.1	0.2
うち、無線通信・無線技術従事者	(0.0)	-	-	-	(9.9)	-	-
うち、電話交換手	(0.1)	-	-	(7.6)	-	-	-
生産工程・労務作業者	28.9	67.3	14.0	16.7	4.4	7.1	1.9
うち電線架線工及び電信電話据付保守工	(0.2)	-	-	(12.6)	-	-	-

資料出所 総務庁統計局「国勢調査」(1995年、速報値)

(注) 就業者についての構成比である。

第110表 産業、就業形態別常用雇用者数構成

第110表 産業、就業形態別常用雇用者数構成

(単位 %)

産業	正社員・職員比率	非正社員・職員比率
産業計	77.0	23.0
製造業	83.6	16.4
サービス業	76.4	23.6
電気通信業	90.3	9.7
放送業	88.6	11.4
広告業	85.1	14.9
情報サービス業	88.9	11.1

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」(1996年)

- (注) 1)「正社員・正職員」とは、常用雇用者のうち一般に正社員・正職員と呼ばれている人をいう。
 2)「非正社員・正職員」とは、常用雇用者のうち一般に正社員・正職員と呼ばれている人以外で、「嘱託」、「パートタイマー」、「アルバイト」又はそれに近い名称で呼ばれている人をいう。
 3)「情報サービス業」は「情報サービス・調査業」をいう。

第111表 産業、性、年齢階級、学歴別平均勤続年数

第111表 産業、性、年齢階級、学歴別平均勤続年数

男性学歴計 (単位 年)

産業	年齢計	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65歳以上
産業計	13.1	2.6	5.2	8.5	11.9	15.5	19.4	22.3	22.6	14.0	12.7
製造業	14.9	3.2	5.9	9.4	12.7	16.8	21.3	24.8	26.3	18.1	16.2
サービス業	10.4	2.2	4.7	7.6	10.7	13.9	17.0	19.0	17.3	9.2	9.3
宿泊業	8.7	2.6	5.2	7.5	9.9	12.1	13.7	14.0	12.4	9.6	9.6
娯楽業	7.4	1.9	3.6	5.8	7.9	9.7	11.7	13.3	13.9	9.9	10.1
教育	14.4	1.9	3.7	6.7	10.3	14.0	18.4	22.6	24.8	14.6	11.6
放送業	15.4	1.5	4.4	8.5	13.0	18.1	22.7	28.0	32.8	17.4	10.7
広告業	11.5	1.5	3.7	6.6	9.6	16.2	19.2	21.8	22.0	9.8	9.0
情報サービス業	8.7	1.6	5.0	8.5	11.9	16.1	20.3	23.9	17.0	6.5	5.0

女性学歴計 (単位 年)

産業	年齢計	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65歳以上
産業計	8.2	2.5	5.3	7.8	9.4	10.8	11.9	13.4	14.8	13.2	16.5
製造業	9.8	3.0	6.2	8.8	10.3	11.3	12.4	14.0	16.0	15.1	18.6
サービス業	7.2	2.2	4.5	6.7	8.4	9.7	10.9	11.9	12.8	10.7	13.3
宿泊業	5.9	2.5	4.9	7.0	6.5	6.8	7.6	7.7	9.3	9.7	11.7
娯楽業	7.2	2.3	3.9	5.2	5.7	6.4	8.8	10.8	14.5	13.1	11.8
教育	9.4	2.0	4.9	7.6	11.1	14.6	17.2	18.6	21.7	23.1	22.3
放送業	8.5	1.7	4.5	8.3	12.8	16.4	21.4	25.8	29.7	25.9	-
広告業	6.8	1.9	3.9	6.4	9.6	10.9	16.0	15.0	24.4	17.3	9.9
情報サービス業	5.6	1.9	5.3	8.1	10.2	13.4	12.0	16.4	14.9	4.3	17.5

男性大卒 (単位 年)

産業	年齢計	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65歳以上
産業計	11.9	1.2	4.0	7.8	11.7	15.3	19.8	23.6	24.3	13.5	11.3
製造業	12.8	1.3	4.0	8.2	12.0	15.5	20.2	24.8	27.3	17.5	15.5
サービス業	10.4	1.1	3.6	7.1	10.3	13.7	17.3	21.2	20.5	11.4	10.1
宿泊業	10.0	1.4	3.8	7.1	10.4	12.5	16.1	16.3	16.5	8.0	7.2
娯楽業	9.0	1.1	3.6	6.2	10.3	12.3	16.5	19.7	19.5	12.7	10.1
教育	14.4	1.4	3.3	6.6	10.1	13.8	17.5	22.6	26.7	16.8	12.5
放送業	13.9	1.2	4.1	8.3	12.5	17.3	22.5	27.4	31.9	19.9	5.4
広告業	11.7	1.0	3.7	6.8	10.0	16.5	19.9	23.3	27.8	12.2	0.5
情報サービス業	8.5	1.0	4.0	8.2	11.6	15.4	19.5	23.4	16.3	7.8	6.7

女性大卒 (単位 年)

産業	年齢計	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65歳以上
産業計	5.8	1.2	3.8	7.0	9.3	11.4	13.7	15.8	19.5	22.8	21.7
製造業	5.9	1.3	4.0	7.5	10.3	12.8	13.4	19.0	23.8	24.0	38.3
サービス業	6.4	1.3	3.4	6.3	8.6	11.2	13.7	16.6	22.1	22.6	21.4
宿泊業	3.5	1.1	3.6	6.8	6.6	7.4	10.1	6.4	31.5	-	-
娯楽業	5.5	1.3	3.7	7.0	10.7	13.4	11.2	16.4	-	4.5	-
教育	10.4	1.2	3.7	6.5	9.9	13.7	16.8	19.0	25.4	24.6	22.7
放送業	6.8	1.3	4.4	8.2	12.4	17.4	23.5	24.8	35.0	-	-
広告業	5.3	1.5	3.4	6.3	7.9	7.5	22.1	21.5	34.8	-	-
情報サービス業	4.6	1.1	3.9	7.7	10.7	13.1	18.1	25.2	7.3	-	-

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」(1998年)
 (注) 「情報サービス業」は「情報サービス・調査業」をいう。
 「宿泊業」は「旅館、その他の宿泊所」をいう。

第112表 産業別入職率・離職率

第112表 産業別入職率・離職率

(単位 %)

産 業	入職率	離職率
サービス産業計	18.0	16.1
対事業所サービス	15.8	14.0
情報サービス業	13.3	9.1
広告業	9.8	8.5
建物サービス業	20.6	18.2
警備業	30.3	26.3
土木建築サービス業	9.7	8.8
その他の専門サービス業	9.2	9.1
他に分類されない事業サービス業	19.1	16.8

資料出所 労働省「サービス業就業実態調査」(1998年)
 (注) この調査でいう対事業所サービスとは、自動車整備業、機械整備業、対事業所物品賃貸業、情報サービス業(ソフトウェア業、情報処理・提供サービス業)、広告代理業、土木建築サービス業その他の専門サービス業、警備業、他に分類されない事業サービス業を表章したものである。

第113表 産業、年齢階級別学歴間年収格差

第113表 産業、年齢階級別学歴間年収格差 (高卒=100)

産業	(男性大卒/高卒)									
	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65歳以上
産業計	98	113	125	133	135	140	147	156	161	192
製造業	98	111	121	128	131	136	145	155	141	154
サービス業	103	118	131	142	146	147	163	170	184	225
放送業	137	156	147	144	139	130	124	114	142	103
広告業	107	138	139	147	140	159	155	155	159	39
情報サービス業	90	104	111	110	109	109	126	124	197	211

(女性大卒/高卒) (高卒=100)

産業	(女性大卒/高卒)									
	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65歳以上
産業計	110	130	156	173	178	194	192	229	270	238
製造業	114	136	187	200	215	258	237	244	248	280
サービス業	112	127	147	169	179	191	198	247	289	223
放送業	152	181	172	165	115	137	99	172	-	-
広告業	116	105	173	164	203	69	213	351	-	-
情報サービス業	101	114	127	155	185	175	138	230	-	-

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」(1998年)より労働省労働経済課試算
 (注) 1)「年間収入」=「きまって支給する現金給与額」×12+「年間賞与その他特別給与額」
 2)「情報サービス業」は「情報サービス・調査業」をいう。

第114表 産業別平均労働時間

第114表 産業別平均労働時間

(単位 時間)

産業	総実労働時間					所定内労働時間					所定外労働時間				
	男女計	男性	女性	一般	パート	男女計	男性	女性	一般	パート	男女計	男性	女性	一般	パート
調査産業計	155.9	166.4	139.2	167.5	95.8	146.3	153.6	134.7	156.4	94.0	9.6	12.8	4.5	11.1	1.8
製造業	162.0	170.1	146.4	168.2	114.9	150.0	154.5	141.2	154.9	112.1	12.0	15.6	5.2	13.3	2.8
サービス業	149.4	158.3	140.7	163.2	83.7	141.5	147.1	136.0	153.9	82.3	7.9	11.2	4.7	9.3	1.4
教育	138.8	140.2	137.3	151.6	49.7	134.3	134.1	134.7	146.5	49.3	4.5	6.1	2.6	5.1	0.4
娯楽業	142.8	157.9	129.3	168.7	92.4	138.1	151.0	126.5	162.2	91.0	4.7	6.9	2.8	6.5	1.4
宿泊業	152.4	169.3	139.4	178.2	103.2	147.0	161.7	135.7	170.7	101.8	5.4	7.6	3.7	7.5	1.4
情報サービス・調査業、広告業	162.9	167.5	150.0	165.5	104.1	145.6	147.8	139.4	147.6	100.7	17.3	19.7	10.6	17.9	3.4
専門サービス業	156.7	166.7	137.8	169.4	68.0	142.4	148.8	130.4	153.3	66.8	14.3	17.9	7.4	16.1	1.2
その他の事業サービス業	147.9	164.3	125.2	169.3	91.3	137.8	150.2	120.6	156.2	89.1	10.1	14.1	4.6	13.1	2.2

資料出所：労働省「毎月勤労統計調査」(1998年)
 (注) 1)事業所規模5人以上。
 2)「宿泊業」は「旅館、その他の宿泊所」をいう。

第115表 産業、職種別勤務・休暇制度の適用状況

第115表 産業、職種別勤務・休暇制度の適用状況

(単位 %)

産業	交替勤務制	休日交替制	フレックスタイム制	時差通勤制	裁量労働制	リフレッシュ休暇制
サービス産業計	25.4	35.6	7.0	9.4	2.9	8.3
情報サービス業	9.6	10.7	30.7	6.1	6.4	15.7
広告業	3.1	16.8	10.3	4.7	4.7	10.3
宿泊業	55.6	64.3	6.3	15.7	1.3	7.1
スポーツ施設提供業	38.5	68.6	1.8	29.0	1.6	4.0
公園、遊園地	24.9	55.7	1.9	12.9	1.3	2.6
遊戯場	80.6	52.1	—	10.3	1.2	3.6
その他の娯楽業	45.0	46.2	1.2	10.0	4.0	1.6
個人教授所	35.3	32.1	6.7	10.3	4.4	8.3

資料出所 労働省「サービス業就業実態調査」(1998年)

(注) 1) 回答は複数回答である。

2) 「情報サービス業」は「情報処理・提供サービス業、ソフトウェア業」をいう。

第116表 産業、労働面の課題別事業所数構成

第116表 産業、労働面の課題別事業所数構成

(単位 %)

産業	人手不足の解消	余剰人員対策	従業員の定着	高齢者対策	研修など教育訓練の充実	就業意欲の維持・向上	労働時間対策	賃金対策	福利厚生の充実	新技術への対応	その他
サービス産業計	22.3	8.4	34.3	15.8	31.2	44.9	20.1	34.4	15.1	18.3	4.9
情報サービス業	31.3	2.2	25.8	4.0	45.3	38.8	13.8	26.8	28.5	30.4	2.9
広告業	14.4	8.2	22.6	9.6	20.5	45.2	21.3	34.5	15.2	26.8	7.8

資料出所 労働省「サービス業就業実態調査」(1998年)

(注) 1) 回答は複数回答である。

2) 「情報サービス業」は「情報処理・提供サービス業、ソフトウェア業」である。

第117表 医療・福祉分野の従業者数の推移

第117表 医療・福祉分野の従業者数の推移

産業	1981年	1986年	1991年	1996年	対1981年比
	人	人	人	人	%
産業計	51,545,087	54,370,454	60,018,831	62,781,253	21.8
製造業	12,895,945	13,351,246	14,095,757	12,930,235	0.3
サービス業	10,557,941	12,162,500	14,613,446	16,508,443	56.4
医療業	1,751,652	2,025,866	2,348,440	2,771,066	58.2
社会保険・社会福祉	535,551	610,613	710,418	929,701	73.6

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」

第118表 医療・社会福祉施設数の推移

第118表 医療・社会福祉施設数の推移

(単位 所)

年	社会福祉施設								医療施設			
	公営	私営	老人福祉	身体障害者更生援護	児童福祉	保育所	知的障害者援護	病院	一般診療所	歯科診療所		
1987年	48,731	30,170	18,561	4,972	932	10,403	22,826	1,435	137,275	9,841	79,134	48,300
88	49,215	30,644	18,571	5,170	964	10,456	22,776	1,545	139,542	10,034	79,752	49,756
89	49,569	30,573	18,996	5,350	1,000	10,443	22,737	1,632	141,849	10,081	80,572	51,196
90	51,006	30,689	20,317	6,506	1,033	10,473	22,703	1,732	143,164	10,096	80,852	52,216
91	51,857	30,702	21,155	7,155	1,086	10,460	22,668	1,851	145,817	10,066	82,118	53,633
92	53,093	30,933	22,160	7,986	1,146	10,599	22,635	1,970	148,359	9,963	83,394	55,002
93	54,281	30,291	23,990	8,903	1,207	10,658	22,584	2,091	149,878	9,844	84,128	55,906
94	55,448	30,297	25,151	9,827	1,266	10,708	22,526	2,203	152,532	9,731	85,588	57,213
95	58,786	30,491	28,277	12,904	1,321	10,743	22,488	2,332	155,082	9,606	87,069	58,407
96	61,197	30,610	30,587	15,000	1,394	10,779	22,438	2,449	156,756	9,490	87,909	59,357
97	63,550	30,621	32,929	17,036	1,488	10,856	22,387	2,590	159,284	9,413	89,292	60,579

資料出所 厚生省「社会福祉施設等調査」「医療施設調査」「病院報告」

第119表 施設別にみた職種別従事者数の推移

第119表 施設別にみた職種別従事者数の推移

(単位 人)

施設・職種		1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	
社会福祉施設	総数	569,363	577,849	593,824	617,859	636,886	671,989	710,011	722,480	763,088	803,861	827,189	
	生活・児童指導員、児童自立支援専門員	30,631	33,332	32,999	35,580	39,440	40,595	43,529	47,265	50,446	56,053	57,369	
	保育士・児童生活支援員	208,496	210,800	213,117	215,054	218,944	226,211	235,229	235,534	241,465	249,067	255,880	
	寮母	51,770	55,653	58,376	64,805	70,427	78,257	86,891	93,362	104,735	115,667	121,230	
	医師	41,284	36,910	41,673	43,132	43,864	44,335	47,557	44,916	48,086	49,263	43,918	
	保健婦・助産婦・看護婦	19,099	20,054	20,896	22,537	24,169	26,085	28,083	30,116	33,848	36,837	40,220	
	老人福祉施設	総数	97,962	103,343	109,443	124,301	135,229	150,649	167,898	179,069	204,932	228,412	246,918
	生活指導員、教護	4,358	4,649	4,845	5,023	6,896	7,690	8,648	9,772	12,432	14,607	15,113	
	寮母	42,944	46,321	48,768	51,914	59,552	66,409	74,343	79,934	90,395	100,182	105,706	
	医師	4,015	3,892	4,252	4,453	4,660	5,010	5,570	4,501	5,764	6,433	5,752	
	保健婦・看護婦	7,157	7,706	8,134	8,553	10,806	11,965	13,279	14,612	18,032	20,671	23,523	
	訪問介護員 (ホームヘルパー)		23,627	25,860	31,049	38,945	48,591	58,427	71,783	86,223	101,527	118,336	128,415
	医療施設	総数	1,989,163	-	-	2,182,976	-	-	2,380,093	-	-	2,568,254	-
医師		229,789	-	-	250,471	-	-	263,808	-	-	277,325	-	
歯科医師		74,305	-	-	81,710	-	-	88,472	-	-	92,942	-	
薬剤師		39,308	-	-	44,125	-	-	48,922	-	-	51,555	-	
看護婦		356,224	-	-	403,286	-	-	459,961	-	-	527,004	-	
准看護婦		327,361	-	-	354,092	-	-	375,048	-	-	384,493	-	
看護補助者		166,835	-	-	178,401	-	-	197,607	-	-	240,512	-	
理学療法士		7,114	-	-	9,849	-	-	12,315	-	-	15,620	-	
作業療法士	2,558	-	-	3,816	-	-	4,838	-	-	6,397	-		

資料出所 厚生省「社会福祉施設等調査」「医療施設調査・病院報告」「社会福祉行政業務報告 (厚生省報告例)」
 (注) 医療施設の従事者数は、非常勤の医師・歯科医師について、勤務時間をもとに常勤換算したものである。

第120表 産業別正社員・正職員、非正社員・非正職員比率(医療、福祉分野等)

第120表 産業別正社員・正職員、非正社員・非正職員比率
(医療・福祉分野等)

(単位 %)

産業	男性		女性	
	正社員・職員比率	非正社員・職員比率	正社員・職員比率	非正社員・職員比率
産業計	87.4	12.6	62.0	38.0
製造業	93.7	6.3	65.4	34.6
サービス業	84.2	15.8	69.2	30.8
医療業	84.2	15.8	82.0	18.0
社会保険・社会福祉	86.8	13.2	77.7	22.3

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」(1996年)

(注) 「正社員・職員比率」及び「非正社員・職員比率」は、常用雇用者に占める割合である。

第121表 産業別常用雇用者の年齢構成

第121表 産業別常用雇用者の年齢構成

(女性)

(単位 %)

産業	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
産業計	2.5	21.0	18.0	9.1	7.5	8.7	12.0	9.4	7.6	4.1
製造業	3.1	16.5	14.5	7.8	7.0	9.8	15.2	12.2	10.0	3.9
サービス業	1.9	21.3	17.5	9.5	8.2	8.9	11.4	8.5	7.6	5.2
医療業	1.8	19.5	16.9	10.3	10.4	10.6	11.8	8.1	6.7	3.9
社会保険、社会福祉	0.6	24.2	14.2	8.7	9.5	11.0	14.0	8.7	6.9	2.3
教育	0.4	26.9	21.2	9.9	7.8	7.8	9.2	6.8	5.3	4.6
娯楽業	2.8	17.2	12.1	6.9	6.2	9.2	15.9	12.6	11.9	5.2
宿泊業	5.3	24.0	11.9	4.9	3.4	5.2	9.6	11.5	13.4	10.8

(男性)

(単位 %)

産業	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
産業計	1.4	9.6	14.1	12.5	11.6	11.5	14.5	11.0	9.1	4.7
製造業	1.9	9.4	13.5	12.6	11.1	11.4	15.0	12.1	10.0	3.1
サービス業	0.9	10.1	15.8	14.2	13.1	10.9	11.7	7.9	7.3	8.1
医療業	0.7	9.3	16.0	15.7	17.2	13.8	10.3	5.4	4.5	7.1
社会保険、社会福祉	0.4	11.3	13.5	12.4	13.9	12.3	11.3	6.8	6.9	11.1
教育	0.3	3.3	8.5	11.8	12.6	12.9	14.4	12.2	10.2	13.8
娯楽業	1.3	16.0	16.6	11.0	9.9	10.0	12.9	7.9	7.3	7.2
宿泊業	2.6	15.0	15.9	12.0	11.6	9.8	11.9	8.1	6.7	6.3

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」(1997年)

第122表 産業、性別の入職率・離職率

第122表 産業、性別の入職率・離職率

(単位 %)

産業	入職率			離職率		
	男女計	男性	女性	男女計	男性	女性
調査産業計	1.88	1.63	2.26	1.96	1.73	2.34
製造業	1.28	1.09	1.62	1.47	1.24	1.92
サービス業	2.03	1.79	2.26	1.99	1.78	2.19
医療業	1.81	2.01	1.75	1.73	1.90	1.68
社会保険・社会福祉	1.81	1.57	1.86	1.62	1.55	1.62
教育	1.67	1.39	1.97	1.67	1.43	1.93
娯楽業	3.71	3.84	3.58	3.82	3.99	3.65
宿泊業	3.00	2.51	3.36	3.18	2.74	3.52

資料出所 労働省「毎月勤労統計調査」(1998年)

(注) 1)事業所規模5人以上
2)宿泊業は旅館、その他の宿泊所のことである。

第123表 勤続5年未満従事者の構成比

第123表 勤続5年未満従事者の構成比

(単位 %)

性・産業	年齢計	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上
(女性)											
産業計	44.6	89.9	43.2	32.4	33.8	30.9	25.8	20.4	18.3	25.8	18.5
製造業	34.5	82.1	31.6	26.0	29.3	27.8	21.0	15.4	13.0	15.4	9.6
サービス業	51.8	94.6	55.2	39.6	37.1	35.6	32.2	27.6	26.1	36.1	24.7
医療業	52.8	95.3	60.2	41.4	37.6	37.6	34.5	29.1	25.5	38.0	29.6
社会保険・社会福祉	49.8	98.4	47.8	36.3	39.9	37.7	32.4	22.1	12.8	22.3	13.7
(男性)											
産業計	29.2	85.8	48.7	22.7	16.8	13.7	12.1	12.5	16.7	37.1	29.6
製造業	22.9	77.8	38.3	16.8	13.1	10.4	8.6	7.7	9.5	25.1	20.0
サービス業	37.2	91.2	54.3	28.3	21.0	17.2	16.5	18.8	30.2	54.9	35.1
医療業	43.9	95.6	68.4	47.0	37.1	25.7	20.2	18.8	17.8	38.9	38.2
社会保険・社会福祉	40.4	96.7	63.5	33.4	21.9	17.9	17.3	13.8	26.4	63.0	33.2

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」(1998年)

付属統計表(第II部)

第124表 職種・年齢階級別医療業の平均年間収入(企業規模計)

第124表 職種、年齢階級別医療業の平均年間収入（企業規模計）

（単位 千円）

性・職種	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上
（女性）											
薬剤師	—	3,424.1	4,096.3	4,904.0	4,911.0	5,206.7	5,078.5	5,906.8	6,010.6	6,532.8	2,171.6
看護婦	—	3,911.5	4,493.8	4,764.9	4,968.0	5,277.1	5,391.1	5,902.2	5,923.8	4,553.5	4,379.6
准看護婦	2,635.8	3,096.0	3,757.4	3,916.3	4,068.0	4,135.8	4,563.7	4,750.1	4,925.3	4,314.9	3,038.9
看護補助者	1,853.3	2,459.7	2,776.7	2,694.2	2,858.9	2,746.9	2,910.5	3,069.3	3,223.7	2,882.8	2,558.2
臨床検査技師	—	3,235.5	3,845.3	4,469.6	4,886.8	5,652.9	6,007.3	6,050.5	5,681.6	—	—
（男性）											
医師	—	2,532.0	7,005.9	9,320.4	12,066.6	14,534.2	15,412.2	18,675.1	18,361.7	16,099.8	11,493.9
薬剤師	—	3,484.9	4,264.8	4,941.3	5,994.2	6,782.3	7,984.1	7,333.4	6,890.7	3,522.7	5,226.8
准看護師	2,122.8	3,025.9	3,959.4	3,984.7	5,121.7	4,927.0	4,509.5	4,882.3	5,525.0	4,718.8	4,689.2
臨床検査技師	—	3,544.6	4,540.0	5,435.9	6,229.5	6,736.9	6,930.1	7,751.9	6,872.7	4,780.6	4,695.9

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」（1998年）より労働省労働経済課試算。

（注）「年間収入」＝「きまって支給する現金給与額」×12＋「年間賞与その他特別給与額」

第125表 週休2日制の実施状況

第125表 週休2日制の実施状況

（単位 %）

産業・施設・職種	完全週休	他の週休2日制			実施なし	
		隔週週休 2日制	月一回週休 2日制	その他		
（適用施設・企業数）						
社会福祉施設	41.6	50.7	10.5	6.8	33.4	7.7
公 営	66.6	30.8	2.9	1.0	26.9	2.6
私 営	17.4	69.8	17.8	12.3	39.7	12.7
老人福祉施設	38.8	51.1	17.5	3.0	30.6	10.1
産業計	33.6	56.3	—	—	—	10.0
製造業	32.8	62.1	—	—	—	5.1
サービス業	50.5	38.5	—	—	—	11.0
（適用労働者数）						
産業計	60.9	34.5	—	—	—	4.6
製造業	64.1	32.4	—	—	—	3.4
サービス業	63.9	30.9	—	—	—	5.2
看護職員	62.8	25.0	—	2.3	22.7	12.1

資料出所 労働省「賃金時間制度等総合調査報告」（1997年）

厚生省「社会福祉施設等調査」（1994年）

（社）日本看護協会「看護職員実態調査」（1997年）

第126表 教育・余暇分野の従業者数の構成変化

第126表 教育・余暇分野の従業者数の構成変化

産業・分野	従業者数(人)				従業者数増加率 1981～1996年(%)
	1981年	1986年	1991年	1996年	
全産業計	51,545,087	54,370,454	60,018,831	62,781,253	21.8
製造業	12,895,945	13,351,246	14,095,757	12,930,235	0.3
サービス業	10,557,941	12,162,500	14,613,446	16,508,443	56.4
教育・余暇分野	3,347,336	3,749,352	4,425,556	4,764,485	42.3
教育分野	2,052,402	2,274,906	2,539,256	2,626,852	28.0
学校教育	1,771,255	1,857,462	1,947,538	1,964,025	10.9
社会教育	66,534	77,178	96,926	118,504	78.1
個人教授所	214,613	340,266	494,792	544,323	153.6
余暇分野	1,294,934	1,474,446	1,886,300	2,137,633	65.1
娯楽業	520,017	645,487	891,923	1,087,003	109.0
宿泊業	695,714	740,368	871,565	911,763	31.1
旅行業	79,203	88,591	122,812	138,867	75.3

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」
(注) 1)教育分野…学校教育、社会教育及び個人教授所
余暇分野…娯楽業、宿泊業及び旅行業
2)「宿泊業」は「旅館、その他の宿泊所」をいう。

第127表 教育・余暇分野の需要面の動向

第127表 教育・余暇分野の需要面の動向

主要旅行業者50社の取扱高

(単位 億円)

年度	国内旅行	海外旅行	合計
1994年度	33,356	23,197	56,553
95	33,718	25,881	59,599
96	34,879	27,780	62,659
97	35,089	27,324	62,413

資料出所 運輸省「運輸経済年次報告」

日本人海外出国者数

(単位 千人)

年	出国者数
1986年	5,516
87	6,829
88	8,427
89	9663
90	10,997
91	10,634
92	11,791
93	11,934
94	13,579
95	15,298
96	16,695
97	16,803

資料出所 総理府「観光白書」(1998年)

(注) 法務省資料に基づく運輸省運輸政策局観光部集計による。

教育委員会及び公民館等社会教育施設における学級・講座等の受講者数

(単位 千人)

年	受講者数
1980年	6,407
86	13,342
92	16,698
95	18,288

資料出所 文部省「社会教育調査」

(注) 社会教育施設は公民館(類似施設を含む)、青少年教育施設、婦人教育施設、図書館、博物館(類似施設を含む)をいう。

第128表 産業,性別従業者数構成

第128表 産業、性別従業者数構成
(単位 人、%)

産業	人数		構成比	
	男性	女性	男性	女性
産業計	37,041,521	25,739,732	59.0	41.0
製造業	8,340,259	4,589,976	64.5	35.5
サービス業	8,094,170	8,414,273	49.0	51.0
教育・余暇分野	2,329,507	2,434,978	48.9	51.1
教育分野	1,310,839	1,316,013	49.9	50.1
学校教育	1,024,252	939,773	52.2	47.8
社会教育	61,445	57,059	51.9	48.1
個人教授所	225,142	319,181	41.4	58.6
余暇分野	1,018,668	1,118,965	47.7	52.3
旅行業	81,023	57,844	58.3	41.7
娯楽業	545,603	541,400	50.2	49.8
宿泊業	392,042	519,721	43.0	57.0

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」(1996年)

(注) 「宿泊業」は「旅館、その他の宿泊所」をいう。

第129表 産業別正社員・正職員、非正社員・非正職員比率(教育・余暇分野等)

第129表 産業別正社員・正職員、非正社員・非正職員比率
(教育・余暇分野等)

(単位 %)

産業	男性		女性	
	正社員・ 職員比率	非正社員・ 職員比率	正社員・ 職員比率	非正社員・ 職員比率
産業計	87.4	12.6	62.0	38.0
製造業	93.7	6.3	65.4	34.6
サービス業	84.2	15.8	69.2	30.8
教育・余暇分野	79.2	20.8	65.5	34.5
教育分野	81.5	18.5	73.0	27.0
学校教育	87.3	12.7	82.4	17.6
社会教育	73.3	26.7	47.0	53.0
個人教授所	44.9	55.1	34.7	65.3
余暇分野	75.9	24.2	55.3	44.7
旅行業	94.4	5.6	74.6	25.4
娯楽業	69.0	31.0	53.1	46.9
宿泊業	81.3	18.7	54.8	45.2

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」(1996年)

- (注) 1) 「正社員・正職員」とは、常用雇用者のうち一般に正社員・正職員と呼ばれている人をいう。
 2) 「非正社員・非正職員」とは、常用雇用者のうち一般に正社員・正職員と呼ばれている人以外で、「嘱託」、「パートタイマー」、「アルバイト」又はそれに近い名称で呼ばれている人をいう。
 3) 「宿泊業」は「旅館、その他の宿泊所」をいう。

第130表 個人教授所における年齢階級別労働者構成比

第130表 個人教授所における年齢階級別労働者構成比

(単位 %)

性	24歳以下	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55歳以上
男性	19.5	39.8	32.0	3.9	4.7
女性	27.4	45.2	15.3	10.5	1.6

資料出所 労働省「サービス業就業実態調査」(1998年)

第131表 産業別平均勤続年数

第131表 産業別平均勤続年数

(単位 年)

産 業	男女計	男性	女性
産業計	11.6	13.1	8.2
製造業	13.6	14.9	9.8
サービス業	8.9	10.4	7.2
宿泊業	7.5	8.7	5.9
娯楽業	7.3	7.4	7.2
教育	12.3	14.4	9.4
個人教授所	5.1	6.0	5.0

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」(1998年)「サービス業就業実態調査」(1998年)

(注) 「宿泊業」は「旅館、その他の宿泊所」をいう。

第132表 産業別平均賃金(一般労働者)

第132表 産業別平均賃金(一般労働者)

(単位 円)

産 業	現金給与総額	定期給与	所定内給与	所定外給与	特別給与
調査産業計	419,095	326,102	304,847	21,255	92,993
製造業	406,120	316,032	287,448	28,584	90,088
サービス業	437,593	331,098	313,361	17,737	106,495
教育	582,353	409,542	401,414	8,128	172,811
娯楽業	313,051	263,911	253,536	10,375	49,140
宿泊業	294,826	243,550	232,566	10,984	51,276
専門サービス業	443,982	346,885	322,523	24,362	97,097
その他の事業サービス業	339,885	274,157	251,613	22,544	65,728

資料出所 労働省「毎月勤労統計調査」(1998年)

(注) 1)事業所規模5人以上。

2)「宿泊業」は「旅館、その他の宿泊所」をいう。

第133表 ビジネス支援分野の事業所数,従業員数及び増減率の推移

第133表 ビジネス支援分野の事業所数、従業員数及び増減率の推移

(実数) (単位 事業所、人)

産 業	事業所数				従業員数			
	1981年	1986年	1991年	1996年	1981年	1986年	1991年	1996年
全産業計	6,488,329	6,708,759	6,753,858	6,717,025	51,545,087	54,370,454	60,008,831	62,781,253
サービス業	1,468,676	1,604,408	1,715,174	1,794,763	10,557,941	12,162,500	14,613,446	16,508,443
ビジネス支援サービス総計	164,011	207,987	261,486	281,113	1,647,721	2,213,313	3,208,467	3,722,344
情報産業総計	16,942	25,107	36,901	37,033	279,050	475,697	843,756	807,107
専門・事業サービス総計	147,069	182,880	224,585	244,080	1,368,671	1,737,616	2,364,711	2,915,237
専門サービス業	108,528	132,691	159,606	177,982	737,752	859,563	1,092,196	1,234,642
法律事務所・特許事務所	8,896	9,674	10,626	11,768	27,698	33,415	38,732	43,956
公証人役場・司法書士事務所	11,343	12,160	13,053	13,375	32,910	35,674	39,878	42,407
公認会計士事務所・税理士事務所	22,584	26,786	30,612	33,534	116,971	131,440	152,437	164,223
土木建築サービス業	38,603	47,836	58,754	64,917	391,833	412,783	505,958	568,481
デザイン業	5,718	7,801	10,075	10,210	28,063	36,719	51,003	47,068
その他の専門サービス業	21,384	28,434	36,486	44,178	140,287	209,532	304,188	368,507
その他の事業サービス業	38,541	50,189	64,979	66,098	630,919	878,053	1,272,515	1,680,595
速記・簿籍・複写業	5,239	4,594	3,915	3,953	35,519	33,239	32,036	33,609
商品検査業	1,163	1,250	1,432	1,747	19,287	21,376	24,777	34,367
計量証明業	471	587	627	752	6,078	8,284	11,280	15,408
建物サービス業	8,330	11,707	14,107	18,427	302,575	403,926	522,846	689,334
民間職業紹介所	2,183	3,071	4,970	4,539	14,251	27,921	84,859	36,743
警備業	2,343	3,314	4,693	6,350	94,904	129,113	187,902	272,971
他に分類されない事業サービス業	18,812	25,666	35,235	30,330	158,305	254,204	408,815	598,163
労働者派遣業	-	-	-	1,704	-	-	-	240,876
他に分類されない事業サービス業	-	-	-	28,626	-	-	-	357,287

(増減率) (単位 事業所、人)

産 業	事業所数				従業員数			
	1981年	1986年	1991年	1996年	1981年	1986年	1991年	1996年
全産業	3.4	0.7	-0.5	3.5	5.5	10.4	4.4	21.8
サービス業	9.2	6.9	4.6	22.2	15.2	20.2	13.0	56.4
ビジネス支援サービス総計	26.8	25.7	7.5	72.6	34.3	45.0	16.0	125.9
情報産業総計	48.2	47.0	0.4	118.6	70.5	77.4	-4.3	189.2
専門・事業サービス総計	24.3	22.8	8.7	66.0	27.0	36.1	23.3	113.0
専門サービス業	22.3	20.3	11.5	64.0	16.5	27.1	13.0	67.4
法律事務所・特許事務所	8.7	9.8	10.7	32.3	20.6	15.9	13.5	58.7
公証人役場・司法書士事務所	7.2	7.3	2.5	17.9	8.4	11.8	6.3	28.9
公認会計士事務所・税理士事務所	18.6	14.3	9.5	48.5	12.4	16.0	7.7	40.4
土木建築サービス業	23.9	22.8	10.5	68.2	5.3	22.6	12.4	45.1
デザイン業	36.4	29.2	1.3	78.6	30.9	38.9	-7.7	67.8
その他の専門サービス業	33.0	28.3	21.1	106.6	49.4	45.2	21.1	162.7
その他の事業サービス業	30.2	29.5	1.7	71.5	39.2	44.9	32.1	166.4
速記・簿籍・複写業	-12.3	-14.8	1.0	-24.5	-6.4	-3.6	4.9	-5.4
商品検査業	7.5	14.6	22.0	50.2	10.8	15.9	38.7	78.2
計量証明業	24.6	6.8	19.9	59.7	36.3	36.2	36.6	153.5
建物サービス業	40.5	20.5	30.6	121.2	33.5	29.4	31.8	127.8
民間職業紹介所	40.7	61.8	-8.7	107.9	95.9	203.9	-56.7	157.8
警備業	41.4	41.6	35.3	171.0	36.0	45.5	45.3	187.6
他に分類されない事業サービス業	36.4	37.3	-13.9	61.2	60.6	60.8	46.3	277.9

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」
 (注) 1) 1996年より他に分類されない事業サービス業の細分類が設けられた。
 2) 「情報産業」は「情報サービス・調査業、広告業」をいう。

第134表 業務委託による労働者数への効果

第134表 業務委託による労働者数への効果

(単位 %)

産 業	平成3年以降に委託を開始した企業計	労働者数への変化				
		増加効果	減少効果	増加とも減少ともいえない	わからない	不明
全産業	100.0	9.2	20.5	54.9	12.6	2.9

資料出所 労働省「アウトソーシング等業務委託の実態と労働面への影響に関する調査」(1997年)

第135表 業務委託部門の配置転換等の状況(業務委託に労働者数減少効果があったとする企業)

第135表 業務委託部門の配置転換等の状況（業務委託に労働者数減少効果があったとする企業）
（単位 %）

項目	構成比
計	100.0 (20.5)
労働者の配置転換等あり	61.8
自社内で同種業務への配置転換	23.7
自社内で異なった業務への配置転換	17.8
委託先へ在籍出向	21.9
委託先へ転籍	29.7
委託先以外へ在籍出向	6.6
委託先以外へ転籍	6.9
早期退職優遇制度の適用	0.4
希望退職者の募集・解雇	6.3
その他	8.4
配置転換等は行わなかった	34.3
もともと担当する専従の労働者はいなかった	23.9

資料出所 労働省「アウトソーシング等業務委託の実態と労働面への影響に関する調査」（1997年）を労働省政策調査部にて特別集計

- (注) 1)平成3年以降の業務委託の導入により、企業全体の労働者数減少効果があったとする企業についての業務委託部門における配置転換等の状況をみたものである。
2) ()内は業務委託導入企業に占める企業全体の労働者数減少効果があったとする企業の割合である。
3)配置転換等の内容については複数回答である。

第136表 産業別男女構成比

第136表 産業別男女構成比

(単位 人、%)

産業	従業者数				構成比			
	1991年		1996年		1991年		1996年	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全産業計	35,758,350	24,260,481	37,041,521	25,739,732	59.6	40.4	59.0	41.0
サービス業	7,404,094	7,209,352	8,094,170	8,414,273	50.7	49.3	49.0	51.0
ビジネス支援サービス総計	2,063,341	1,155,126	2,287,688	1,434,656	64.0	36.0	61.5	38.5
情報産業総計	574,441	269,315	571,528	235,579	68.1	31.9	70.8	29.2
専門・事業サービス総計	1,478,900	885,811	1,716,160	1,199,077	62.5	37.5	58.9	41.1
専門サービス業	736,275	355,921	828,607	406,035	67.4	32.6	67.1	32.9
法律事務所・特許事務所	20,439	18,293	22,805	21,151	52.8	47.2	51.9	48.1
公証人役場・司法書士事務所	22,013	17,865	22,924	19,483	55.2	44.8	54.1	45.9
公認会計士事務所・税理士事務所	77,293	75,144	85,655	78,568	50.7	49.3	52.2	47.8
土木建築サービス業	382,937	123,021	425,251	143,230	75.7	24.3	74.8	25.2
デザイン業	29,877	21,126	27,878	19,190	58.6	41.4	59.2	40.8
その他の専門サービス業	203,716	100,472	244,094	124,413	67.0	33.0	66.2	33.8
その他の事業サービス業	742,625	529,890	887,553	793,042	58.4	41.6	52.8	47.2
速記・簿記・複写業	14,992	17,044	16,426	17,183	46.8	53.2	48.9	51.1
商品検査業	14,173	10,604	18,240	16,127	57.2	42.8	53.1	46.9
計量証明業	8,246	3,034	11,078	4,330	73.1	26.9	71.9	28.1
建物サービス業	265,367	257,479	336,702	352,632	50.8	49.2	48.8	51.2
民間職業紹介所	28,563	56,296	15,221	21,522	33.7	66.3	41.4	58.6
警備業	167,577	20,325	240,198	32,773	89.2	10.8	88.0	12.0
他に分類されない事業サービス業	243,707	165,108	249,688	348,475	59.6	40.4	41.7	58.3
労働者派遣業	-	-	42,833	198,043	-	-	17.8	82.2
他に分類されない事業サービス業	-	-	206,855	150,432	-	-	57.9	42.1

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」

- (注) 1)1996年より他に分類されない事業サービス業の細分類が設けられた。
2)「情報産業」は「情報サービス・調査業、広告業」をいう。

第137表 産業別正社員・正職員、非正社員・非正職員比率(ビジネス支援分野等)

第137表 産業別正社員・正職員、非正社員・非正職員比率
(ビジネス支援分野等)

(単位 %))

産 業	男性		女性	
	正社員・正職員比率	非正社員・非正職員比率	正社員・正職員比率	非正社員・非正職員比率
全産業計	87.4	12.6	62.0	38.0
製造業	93.7	6.3	65.4	34.6
サービス業	84.2	15.8	69.2	30.8
専門サービス業	92.9	6.9	77.9	22.1
法律事務所・特許事務所	92.4	7.6	88.8	11.2
公証人役場・司法書士事務所	92.7	7.3	86.6	13.4
公認会計士事務所・税理士事務所	95.7	4.3	86.4	13.6
土木建築サービス業	93.4	6.3	73.1	26.9
デザイン業	93.1	6.9	80.9	19.1
その他の専門サービス業	91.3	8.7	73.4	26.6
その他の事業サービス業	72.6	27.4	37.1	62.9
速記・筆耕・複写業	91.9	8.1	68.7	31.3
商品検査業	90.8	9.2	45.7	54.3
計量証明業	93.5	6.5	69.7	30.3
建物サービス業	68.8	31.2	41.3	58.7
民間職業紹介所	72.8	27.2	50.4	48.9
警備業	66.8	33.2	62.9	37.1
他に分類されない事業サービス業	80.1	19.9	27.1	72.9
労働者派遣業	57.9	42.1	13.3	86.7
他に分類されない事業サービス業	85.0	15.0	46.8	53.2

資料出所 総務庁統計局「事業所・企業統計調査」(1996年)

(注) 1)「正社員・正職員」とは、常用雇用者のうち、一般に正社員・正職員と呼ばれている人をいう。
2)「非正社員・非正職員」とは、常用雇用者のうち、一般に正社員・正職員と呼ばれている人以外で、「嘱託」、「パートタイマー」、「アルバイト」又はそれに近い名称で呼ばれている人をいう。

第138表 産業、性別労働者の平均勤続年数

第138表 産業、性別労働者の平均勤続年数

(単位 年)

産 業	男女計	男性	女性
サービス産業計	8.06	9.10	6.07
対事業所サービス	9.00	10.04	6.02
建物サービス業	7.01	7.05	6.09
警備業	5.09	6.01	4.07
土木建築サービス業	10.03	11.05	6.08
その他の専門サービス業	9.00	10.06	5.06
他に分類されない事業サービス業	9.01	9.10	8.02

資料出所 労働省「サービス業就業実態調査」(1998年)

(注) この調査でいう対事業所サービスとは、自動車整備業、機械整備業、対事業所物品貸業、情報サービス業(ソフトウェア業、情報処理・提供サービス業)、広告代理業、土木建築サービス業、その他の専門サービス業、警備業、他に分類されない事業サービス業を表章したものである。

第139表 産業別、深夜労働・休日労働の有無別労働者数の構成比

第139表 産業別、深夜労働・休日労働の有無別労働者数の構成比

(単位 %))

産 業	深夜労働				休日労働			
	ほとんど ない	時々ある	勤務する ことが多い	不明	ほとんど ない	時々ある	勤務する ことが多い	不明
サービス産業計	72.1	20.8	6.6	0.5	59.0	33.0	7.8	0.3
対事業所サービス	68.9	24.0	6.7	0.5	55.8	35.8	8.2	0.3
建物サービス業	71.7	20.9	6.9	0.5	58.1	31.8	10.1	-
警備業	58.8	20.0	20.9	0.3	54.2	34.5	11.3	-
土木建築サービス業	63.5	27.9	8.6	-	48.7	41.4	9.9	-
その他の専門サービス業	69.6	26.6	3.8	-	54.5	37.3	8.2	-
他に分類されない事業サービス業	78.5	16.1	4.7	0.7	59.9	33.0	6.8	0.4

資料出所 労働省「サービス業就業実態調査」(1998年)

(注) この調査でいう対事業所サービスとは、自動車整備業、機械整備業、対事業所物品賃貸業、情報サービス業(ソフトウェア業、情報処理・提供サービス業)、広告代理業、土木建築サービス業、その他の専門サービス業、警備業、他に分類されない事業サービス業を表章したものである。

第140表 産業、休日制度別労働者数の構成比

第140表 産業、休日制度別労働者数の構成比

(単位 %))

産 業	週休2日			週休1日半	週休1日		無休	他	
	毎週	隔週	日曜日		他				
サービス産業計	49.0	62.4	37.6	3.7	19.8	48.9	51.1	12.5	15.0
対事業所サービス	72.5	68.8	31.2	2.7	11.4	78.7	21.3	1.6	11.8
建物サービス業	35.4	65.4	34.6	4.0	26.9	58.3	41.7	2.0	31.7
警備業	49.7	61.3	38.7	2.1	20.1	78.2	21.8	4.1	24.1
土木建築サービス業	90.6	59.7	40.3	2.1	0.3	100.0	-	-	7.0
その他の専門サービス業	93.4	80.6	19.4	-	0.5	-	100.0	0.5	5.7
他に分類されない事業サービス業	74.0	66.5	33.5	3.3	14.0	82.0	18.0	2.0	6.7

資料出所 労働省「サービス業就業実態調査」(1998年)

(注) この調査でいう対事業所サービスとは、自動車整備業、機械整備業、対事業所物品賃貸業、情報サービス業(ソフトウェア業、情報処理・提供サービス業)、広告代理業、土木建築サービス業、その他の専門サービス業、警備業、他に分類されない事業サービス業を表章したものである。

第141表 産業、今後の労働面の最重要課題別事業所数の構成比

第141表 産業、今後の労働面の最重要課題別事業所数の構成比

(単位 %)

産 業	人手不足の解消	余剰人員対策	従業員の定着	研修など教育訓練の充実	就業意欲の維持・向上	労働時間対策	賃金対策	福利厚生の実施	新技術への対応	高齢者対策	その他	不明
サービス産業計	7.9	3.9	17.0	10.2	18.9	7.4	14.7	1.0	7.1	5.1	3.4	0.1
対事業所サービス	8.0	3.1	11.7	13.4	13.3	6.8	17.4	1.1	12.4	5.9	3.1	0.2
建物サービス業	8.6	0.4	17.9	10.4	7.4	6.9	26.4	0.2	2.2	13.4	1.2	1.2
警備業	7.0	3.7	31.5	16.1	7.6	7.3	14.0	0.3	3.0	8.1	0.9	-
土木建築サービス業	1.0	0.8	0.2	14.6	15.4	3.4	21.3	-	27.4	2.9	4.3	-
その他の専門サービス業	10.2	1.5	7.6	18.0	18.2	0.5	10.8	5.4	12.7	2.4	10.6	0.1
他に分類されない事業サービス業	11.1	5.1	9.2	15.4	16.3	2.4	5.1	2.7	24.4	4.3	3.6	-

資料出所 労働省「サービス業就業実態調査」(1998年)

(注) この調査でいう対事業所サービスとは、自動車整備業、機械整備業、対事業所物品賃貸業、情報サービス業(ソフトウェア業、情報処理・提供サービス業)、広告代理業、土木建築サービス業、その他の専門サービス業、警備業、他に分類されない事業サービス業を表章したものである。

第142表 産業、確保したい人材別事業所の構成比

第142表 産業、確保したい人材別事業所の構成比

(単位 %)

産 業	管理職経験者	海外勤務経験者	資格保有者	中高年齢者	中堅社員	若年者	職種技術者	こだわらない
サービス産業計	4.0	0.4	22.3	3.1	17.4	34.7	30.9	14.6
対事業所サービス	3.0	0.3	28.1	3.6	17.1	31.1	42.3	9.9
情報サービス業	1.6	-	18.3	0.1	26.4	43.4	76.7	4.9
広告業	0.0	0.7	8.0	4.9	18.0	32.7	33.3	5.7
土木建築サービス業	4.3	0.5	53.2	0.0	19.4	23.7	56.9	0.7
その他の専門サービス業	1.5	1.5	20.8	-	11.0	29.6	46.2	3.3
建物サービス業	3.0	-	26.0	8.3	18.1	21.2	21.2	25.5
警備業	2.9	-	30.6	15.2	35.1	39.9	17.9	20.8
他に分類されない事業サービス業	3.4	0.3	15.7	3.6	6.1	21.2	29.4	15.0

資料出所 労働省「サービス業就業実態調査」(1998年)

(注) 1)複数回答である。

2)この調査でいう対事業所サービスとは、自動車整備業、機械整備業、対事業所物品賃貸業、情報サービス業(ソフトウェア業、情報処理・提供サービス業)、広告代理業、土木建築サービス業、その他の専門サービス業、警備業、他に分類されない事業サービス業を表章したものである。

第143表 1997年の雇用構造

第143表 1997年の雇用構造

産業、職業	正規の職員・従業員		パート・アルバイト雇用者数		パート・アルバイト比率	
	千人	増加幅 千人	千人	増加幅 千人	%	%ポイント 上昇幅
合計	38,542	3,977	10,342	3,779	18.8	4.6
(産業)						
農業	129	39	110	46	37.7	6.0
林業	35	-32	6	-1	11.1	3.9
漁業	62	-54	16	1	17.0	7.3
鉱業	35	-37	2	0	4.7	2.3
建設業	4,069	938	429	126	7.7	0.8
製造業	10,003	155	2,019	194	15.4	1.1
電気・ガス・熱供給・水道業	357	32	9	0	2.3	-0.2
運輸・通信業	3,236	217	430	245	11.0	5.5
卸売・小売業、飲食店	6,537	290	4,142	1,651	34.6	9.4
金融・保険業	1,627	2	146	52	7.7	2.6
不動産業	326	55	66	32	10.8	3.4
サービス業	9,981	2,054	2,696	1,255	18.6	4.9
(職業)						
専門的・技術的職業従事者	6,148	1,320	611	291	8.2	2.5
管理的職業従事者	688	26	0	0	0.0	0.0
事務従事者	9,454	1,026	2,252	1,028	17.5	5.6
販売従事者	5,433	693	1,247	422	16.8	3.5
サービス職業従事者	1,889	251	1,859	771	46.0	9.0
保安職業従事者	774	120	98	67	10.6	6.4
農林漁業作業員	217	-29	117	36	28.7	9.8
運輸・通信従事者	1,961	-54	151	62	6.8	2.7
技能工、採掘・製造・建設作業員及び労務作業員	11,698	411	3,844	962	22.8	4.1

資料出所 総務庁統計局「就業構造基本調査」
(注) 増加幅、上昇幅は、1987年から1997年の増加幅。

第144表 事業展開と雇用をめぐる課題

第144表 事業展開と雇用をめぐる課題

(単位 %)

業種	人材情報不足	企業としての知名度低い	人件費比率の上昇	質の高い人材獲得難	教育訓練経費の増加	教育訓練のノウハウ不足	人材育成が間に合わない	従業員の定着率低い
計	10.6	14.3	52.7	49.3	12.0	18.5	30.5	9.3
建設業	10.8	13.7	48.2	47.5	7.2	15.1	31.7	7.2
製造業	10.2	20.3	45.6	54.6	10.3	19.8	33.9	5.0
電気・ガス・熱供給・水道業	11.1	33.3	66.7	22.2	11.1	33.3	22.2	0.0
運輸・通信業	8.9	12.8	52.8	39.4	10.6	13.9	31.7	14.4
卸売・小売、飲食店	10.5	13.4	58.0	49.4	13.4	22.3	33.4	9.9
金融・保険業、不動産業	7.6	10.9	53.3	42.4	22.8	19.6	29.3	6.5
サービス業	12.6	9.6	58.8	51.0	13.0	16.8	25.1	13.4
事業所サービス	12.1	12.1	54.5	58.8	17.6	12.1	30.9	8.5
個人サービス	7.1	7.1	54.8	50.0	14.3	19.0	26.2	21.4
医療・福祉サービス	16.7	3.9	69.6	48.0	9.8	19.6	15.7	15.7
教育・娯楽関連サービス	10.7	10.7	60.7	33.9	3.6	14.3	8.9	14.3
その他サービス業	10.4	11.3	55.7	46.2	13.2	21.7	33.0	15.1

(単位 %)

業種	能力主義的処遇の実際評価困難	人材の過剰配属困難	積極的に挑戦する人材不足	保守的な企業風土	その他	無回答
計	24.2	14.4	37.9	21.1	2.7	5.1
建設業	23.0	14.4	44.6	26.6	1.4	2.9
製造業	23.4	15.1	39.2	23.2	3.8	4.5
電気・ガス・熱供給・水道業	22.2	33.3	11.1	44.4	0.0	11.1
運輸・通信業	18.9	14.4	40.0	27.8	2.2	4.4
卸売・小売、飲食店	24.5	16.9	40.1	17.8	1.6	2.9
金融・保険業、不動産業	30.4	21.7	30.4	21.7	3.3	5.4
サービス業	25.9	10.4	34.4	16.3	2.8	6.2
事業所サービス	29.1	10.9	37.0	15.2	1.2	4.2
個人サービス	19.0	7.1	52.4	14.3	4.8	7.1
医療・福祉サービス	24.5	8.8	34.3	19.6	2.9	8.8
教育・娯楽関連サービス	33.9	12.5	30.4	23.2	1.8	5.4
その他サービス業	20.8	11.3	25.5	12.3	4.7	6.6

資料出所 日本労働研究機構「企業の事業展開と雇用に関する実態調査」(1999年)

(注) 1)複数回答である。

2)計には「無回答」を含む。

第145表 今後なりたいビジネスマン像

第145表 今後なりたいビジネスマン像

(単位 %))

項目	割合
社外にも通用する高い専門性を持っている人	61.7
広い視点でものごとをとらえられる人	50.6
社内外に多くの人的ネットワークを持っている人	45.8
上位者に対して自らの意思・戦略を明確に出せる人	43.8
状況の変化に柔軟に対応できる人	43.7
未知なものへのチャレンジ精神を持っている人	42.7
目標に向かって意欲的に行動する人	40.3
一分野にとらわれることなく多方面に精通している人	38.8
自らが問題形成し提案できる人	37.7
個性豊かで独創性を発揮できる人	34.9
事業家（起業家）的のマインドが高い人	30.5
情報に対する感受性が高い人	29.1
ものごとを論理的にとらえられる人	28.5
人間関係を大切にする人	20.8
自律的に仕事をすすめられる人	18.8
伝統や前例にとられない人	15.9
与えられた課題を確実に遂行できる人	14.8
効率を重視する人	13.0
一生懸命に仕事をする人	7.9
無回答	1.4

資料出所 (株)リクルートHRD研究所「能力・実力主義社会での働き方に関する調査」(1997年)
(注) 複数回答 (7つまで)

第146表 企業が求める人材像

第146表 企業が求める人材像

(単位 %)

項目	割合
目標に向かって意欲的に行動する人	79.7
自らが問題形成し提案できる人	64.4
状況の変化に柔軟に対応できる人	64.4
社外にも通用する高い専門性を持っている人	53.7
広い視点でものごとをとらえられる人	50.9
未知なものへのチャレンジ精神を持っている人	43.8
自律的に仕事をすすめられる人	43.8
上位者に対して自らの意思・戦略を明確に出せる人	38.4
個性豊かで独創性を発揮できる人	33.1
情報に対する感受性が強い人	31.3
事業家(起業家)的マインドが高い人	26.3
与えられた課題を確実に遂行できる人	26.3
一分野にとらわれることなく多方面に精通している人	20.6
社内外に多くの人的ネットワークを持っている人	18.9
伝統や前例にとらわれない人	17.8
ものごとを論理的にとらえられる人	17.1
効率を重視する人	14.6
人間関係を大切にす人	13.2
一生懸命に仕事をする人	11.4
無回答	0.4

資料出所 (株)リクルートHRD研究所「21世紀の人事管理に関する調査」(1997年)
(注) 複数回答(7つまで)

第147表 現在の仕事をする上で有効な事柄(有効度指数)

第147表 現在の仕事をする上で有効な事柄(有効度指数)

項目	日本	アメリカ	ドイツ
最終学歴の教育内容	0.86	1.50	0.87
会社が実施するOf f-JT	0.96	1.15	1.19
独学や自費で受けた教育訓練	1.26	1.34	1.46
当該職能内のいろいろな仕事の経験	1.70	1.71	1.58
当該職能内の特定の仕事の経験	1.46	1.57	1.41
当該職能の他の職能の仕事の経験	1.47	1.06	1.19
職場の上司の指導やアドバイス	1.40	1.35	1.06

資料出所 日本労働研究機構「管理職のキャリアとホワイトカラーの雇用管理に関する国際比較調査」(1996年)

- (注) 1) 有効度指数は、各選択肢の回答比率から次のように作成。
有効度指数 = (「かなり役に立った」(%)×2 + 「多少役に立った」(%)×1 + 「役に立たなかった」(%)×0) / (100 - 「経験していない」(%) - 「無回答」(%))
2) 「経験しなかった」は「最終学歴の教育内容」を除く各選択肢に設けられている。
3) 「最終学歴の教育内容」を除き、有効度指数は、経験した者の評価によるもの。
4) 「当該職能」は、現在の配置先職能を指す。

第148表 職場内で行った指導内容と最も効果的な職場内訓練

第148表 職場内で行った指導内容と最も効果的な職場内訓練

(単位 %)

項目	どのような指導を行ったか	最も効果的である職場内訓練
業務日誌を作成させる	27.4	0.6
業務改善案を考えさせる	44.3	5.7
特定課題のレポートを書かせる	28.4	2.1
作業指示書を作成させる	14.0	0.5
企画立案の仕事をさせる	38.4	3.6
レベルの高い仕事にチャレンジさせる	55.7	26.1
職域にこだわらず全ての仕事をさせる	14.3	3.5
特定の仕事について責任を与える	56.7	25.7
仕事についての相談に乗る	67.8	3.7
生活や仕事態度についてアドバイスする	39.0	1.1
能力開発の目標を明確化させ、具体的な計画を作成させる	33.2	13.2
仕事に関する専門書を読ませる	36.2	1.1
自己啓発に関する情報提供	33.4	2.2
その他	3.7	1.2
本人に任せてとくに何も行っていない	0.6	0.2
不明	—	9.1

資料出所 日本労働研究機構「企業における教育訓練経歴と研修ニーズに関する調査」(1997年)

第149表 社員が創造的に仕事を行う能力を高めるために社内で行う能力開発方法

第149表 社員が創造的に仕事を行う能力を高めるために社内で行う能力開発方法

(単位 %)

項目	割合
社内異動やローテーション等計画的な育成を行う	60.4
生産部門、販売部門など現場を経験させる	23.0
小集団活動・社内研究会・提案制度などを行う	25.3
全社的な一斉研修に参加させる	11.1
社内で行う専門的な知識・技能の研修に参加させる	34.8
資格取得など社員の自己啓発を支援する	42.9
日々の仕事を通じた育成	63.1
その他	2.1
特に重視していることはない	2.6
無回答	1.3

資料出所 (株)三和総合研究所「労働の知的集約化に関するアンケート」(1995年)

(注) 複数回答である。

第150表 戦略的人材の職務能力の育成で企業が重視しているもの

第150表 戦略的人材の職務能力の育成で企業が重視しているもの

(単位 %)

項目	割合
日常業務の中で一般的なOJT	29.2
育成を目指した体系的OJT	61.7
部門別、職能別の社内研修	23.9
他社への研修出向	32.2
外部セミナー、研修への参加	67.5
大学院に国内留学	11.1
大学院に海外留学	11.7
個人による自己啓発	70.6
その他	5.6
一般従業員と特に変わらない	1.9
戦略的人材は社内育成できない	0.0
無回答	0.6

資料出所 (株)三和総合研究所「21世紀に向けての人的能力に関するアンケート調査」(1997年)

- (注) 1)ここで「戦略的人材」とは、①新規事業や既存業務の拡充といった21世紀に向けての企業活動を推進するために不可欠の人材のうち、②職務内容が明確で、③しかも、そのパフォーマンスが経営を左右するという意味で事業を直接担っている人材をいう。
 2)ここで「体系的なOJT」とは、日常の業務に就きながら行われる職業能力開発で、能力開発に関する計画書を作るなどして教育指導者、対象者、期間、内容等を具体的に定め、段階的、継続的に実施するものをいう。
 3)複数回答である。

第151表 企業の人材育成に対する考え方

第151表 企業の人材育成に対する考え方

(単位 %)

項目	はい	いいえ	無回答
人材育成の費用を重点的に配分していく	65.5	27.5	7.0
全体的な底上げ教育よりも選抜教育を重視していく	48.8	43.9	7.3
外部委託・アウトソーシングのウェイトを高めていく	29.6	63.9	6.5
必要な人材を外部から調達するウェイトを高めていく	39.2	54.5	6.2
今よりもOff-JTのウェイトを重視していく	28.6	62.9	8.6
今よりもOJTのウェイトを重視していく	66.2	26.8	7.0
能力開発において個人責任のウェイトを高めていく	74.0	17.9	8.1
職能要件・能力開発要件を厳密・明確にしていく	57.9	34.0	8.1
社外に通用する専門能力をつける教育を重視していく	62.1	30.1	7.8
人事制度や処遇との関連づけをより密接にしていく	74.3	20.0	5.7
能力開発の責任・権限を事業部門に移管していく	36.1	55.6	8.3

資料出所 (株)野村総合研究所「職業能力開発および人材育成に関するアンケート」(労働省委託、1997年)

第152表 能力開発プログラムに対する評価

第152表 能力開発プログラムに対する評価

(単位 %)

項目	割合
不満がある	71.9
不満はない	24.0
無回答	4.1

資料出所 (株)リクルートHRD研究所「日本の人事システムと人材開発についての調査」(1995年)

第153表 会社が企画する能力開発プログラムの内容への不満

第153表 会社が企画する能力開発プログラムの内容への不満

(単位 %)

項目	割合
実践に結びつかないものが多い	22.6
場あたりので長期的な視点を持っていない	31.9
プログラムの種類が少ない	20.3
一方的に会社の考えを押しつけられる場合が多い	12.6
現場のニーズに対応しきれていない	28.5
社員個人の能力水準に応じたものになっていない	22.4
最新の情報が充分にもりこまれていない	11.1
その他	5.4
無回答	35.6

資料出所 (株)リクルートHRD研究所「日本の人事システムと人材開発についての調査」
(1995年)

(注) 複数回答である。

第154表 雇用保険失業給付の実績

第154表 雇用保険失業給付の実績

年度	受給者実人員 (単位 千人)	支給額 (単位 百万円)	支給実績の推移 (単位 円)	
			名目	実質
1985年度	628	63,921	120,300	137,643
86	675	70,780	122,970	139,739
87	650	70,348	126,180	143,386
88	550	60,198	128,670	145,226
89	506	56,767	131,460	144,939
90	482	55,710	135,810	145,251
91	494	61,364	145,650	150,933
92	571	75,793	156,030	159,052
93	699	95,611	159,420	160,382
94	780	109,719	163,290	163,127
95	837	120,351	166,950	166,950
96	844	123,724	170,820	170,649
97	899	134,516	174,360	171,109

資料出所 労働省「雇用保険事業年報」、総務庁統計局「消費者物価指数」

- (注) 1) 一般求職者給付基本手当の実績であり、年度ごとの月平均である。
 2) 延長給付及び特例訓練を除く(所定給付日数分のみ)。
 3) 1人あたりの支給実績(名目) = 支給額 / 給付延日数 × 30日
 1人あたりの支給実績(実質) = 1人あたりの支給実績(名目) / 消費者物価指数 × 100
 4) 支給実績の実質は95年ベースである。
 5) 支給実績の推移については、労働省労働経済課試算。

第155表 世帯主が求職中の世帯における収入

第155表 世帯主が求職中の世帯における収入

(単位 件、%)

収入源	全年齢	30～39歳	40～49歳	50～54歳	54～59歳	60～64歳	65～69歳
実収入	291,496	127,862	204,269	299,215	257,812	364,375	294,375
勤め先収入	87,659	18,621	52,237	113,890	111,796	107,298	65,316
うち世帯主	0	0	0	0	0	0	0
事業・内職収入	3,895	1,075	388	7,280	6,651	4,144	4,445
他の経常収入	180,605	95,781	142,544	138,023	122,900	230,039	211,097
社会保障給付	156,736	58,325	54,981	97,744	118,984	218,546	208,750
公的年金給付	90,999	4,733	15,135	23,927	32,627	136,982	177,883
他の社会保障給付	65,737	53,592	39,846	73,816	86,357	81,564	30,867
他の社会保障給付の割合	22.6	41.9	19.5	24.7	33.5	22.4	10.5

資料出所 総務庁「全国消費実態調査」(1994年)を総務庁統計局で特別集計

第156表 公共職業訓練校数(1998年度)

第156表 公共職業訓練校数 (1998年度)

(単位 件)

訓練校	施設数
合計	335
都道府県立職業能力開発校	223
市町村立職業能力開発校	1
雇用促進事業団立職業能力開発短期大学校	26
都道府県立職業能力開発短期大学校	6
雇用促進事業団立職業能力開発促進センター	60
国立障害者職業能力開発校	13
都道府県立障害者職業能力開発校	6

資料出所 労働省職業能力開発局調べ (1998年4月1日現在)

(注) この他に、各施設の指導員の養成を行う雇用促進事業団立職業能力開発大学校がある。

第157表 職業訓練の効果の分析(ロジスティック分析)

第157表 職業訓練の効果の分析（ロジスティック分析）

(1) 東京都修了生実態調査

①働いているか (働いている=1、働いていない=0)		②現職のまま仕事を続けたいか (続けたい=1、転職したい他=0)	
科目ダミー-1 (建築系)	.5979*** (.0505)	科目ダミー-1 (建築系)	.0374 (.0233)
科目ダミー-2 (電気系)	.3873*** (.0327)	科目ダミー-2 (電気系)	-.0880 (-.0548)
科目ダミー-3 (化学・印刷系)	-.1982* (-.0167)	科目ダミー-3 (化学・印刷系)	-.2684*** (-.1670)
科目ダミー-4 (事務系)	.1220 (.0103)	科目ダミー-4 (事務系)	-.2324*** (-.1446)
科目ダミー-5 (被服系)	-.2644* (-.0223)	科目ダミー-5 (被服系)	-.2376 (-.1479)
科目ダミー-6 (その他)	.6640*** (.0560)	科目ダミー-6 (その他)	.3108*** (.1934)
訓練内容	.1951*** (.0165)	訓練内容	.3966*** (.2468)
性別	.2222*** (.0188)	性別	.0301 (.0187)
年齢	-.0330*** (-.1165)	年齢	.0093*** (.2363)
年ダミー-1(1994年度修了生)	-.1958*** (-.0165)	年ダミー-1(1994年度修了生)	.0074 (.0046)
年ダミー-2(1995年度修了生)	-.2821*** (-.0238)	年ダミー-2(1995年度修了生)	-.1039 (-.0647)
③収入に影響はあったか (評価された=1、変わらない、わからない=0)		④仕事に役立っているか (役に立っている、少し役に立っている=1、役に立っていない他=0)	
科目ダミー-1 (建築系)	.3870*** (.2038)	科目ダミー-1 (建築系)	.5109*** (.0093)
科目ダミー-2 (電気系)	.3743*** (.1971)	科目ダミー-2 (電気系)	.6010*** (.0109)
科目ダミー-3 (化学・印刷系)	.0715 (.0377)	科目ダミー-3 (化学・印刷系)	.2097* (.0038)
科目ダミー-4 (事務系)	.0166 (.0087)	科目ダミー-4 (事務系)	.5548*** (.0101)
科目ダミー-5 (被服系)	-.1130 (-.0595)	科目ダミー-5 (被服系)	-.1637 (-.0030)
科目ダミー-6 (その他)	.4175*** (.2199)	科目ダミー-6 (その他)	1.1013*** (.0200)
訓練内容	.5482*** (.2887)	訓練内容	.6063*** (.0110)
性別	.0432 (.0228)	性別	.0119 (.0002)
年齢	.0048* (.1032)	年齢	-.0082*** (-.0061)
年ダミー-1(1994年度修了生)	-.0509 (-.0268)	年ダミー-1(1994年度修了生)	-.1332* (-.0024)
年ダミー-2(1995年度修了生)	-.0149 (-.0078)	年ダミー-2(1994年度修了生)	-.0777 (-.0014)

資料出所 東京都「修了生実態調査」(1996～1998年度)を労働省政策調査部で特別集計したもののから同部労働経済課推計

- (注) 1)科目は機械系が基準になっており、科目ダミーがすべて0。
 2)修了年は1996年度修了生が基準になっており、年ダミーがどちらも0。
 3)***=1%水準で有意、**=5%水準で有意、*=10%水準で有意
 4)()内は弾性値。

(2) 東京都修了生追跡調査

○働いているか (最初の会社に引き続き勤務=1、他=0)	
科目ダミー-1 (建築系)	.0095 (.0079)
科目ダミー-2 (電気系)	-.0977 (-.0809)
科目ダミー-3 (化学・印刷系)	-.3844*** (-.3181)
科目ダミー-4 (事務系)	-.2872*** (-.2377)
科目ダミー-5 (被服系)	-1.0786*** (-.8927)
科目ダミー-6 (その他)	-.0534 (-.0442)
訓練内容	.5106*** (.4226)
性別	.3003*** (.2485)
年齢	-.0115*** (-.4118)
年ダミー-1 (1991年度修了生)	.2526*** (.2091)
年ダミー-2 (1992年度修了生)	.1730** (.1432)
学歴	.0292 (.0242)

資料出所 東京都「修了生実態調査」(1996～1998年度)を労働省政策調査部で特別集計したもののから同部労働経済課推計

- (注) 1)科目は機械系が基準になっており、科目ダミーがすべて0。
 2)修了年は1993年度修了生が基準になっており、年ダミーがどちらも0。
 3)***=1%水準で有意、**=5%水準で有意、*=10%水準で有意
 4)()内は弾性値。

第158表 地域別入職経路

第158表 地域別入職経路

(単位 %)

求職方法	合計	都市圏	地方圏
職安	19.4	15.4	22.7
学校	2.8	3.2	2.5
広告	34.4	44.3	26.3
縁故	34.0	28.5	38.6
その他	9.4	8.6	10.0

資料出所 労働省「雇用動向調査」を労働省政策調査部で特別集計

(注) 1)学卒を除く既就業者。

2)1995～97年平均。

3)都市圏は南関東、東海、近畿、地方圏は北海道、東北、北関東・甲信、北陸、中国、四国、九州。

第159表 年齢階級別入職経路

第159表 年齢階級別入職経路

(単位 %)

求職方法	合計	24歳以下	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上
職安	19.2	19.3	18.1	19.2	18.4	19.8	19.9	20.1	22.6	20.4	8.0
学校	10.6	23.0	4.7	1.7	0.9	0.4	1.0	0.8	0.3	0.0	0.0
広告	30.1	29.2	36.5	35.7	34.9	34.2	31.6	26.0	15.8	12.5	6.6
その他	8.6	6.9	8.7	8.1	9.8	8.2	9.2	9.8	10.9	14.0	28.4
縁故	28.8	20.9	29.6	31.9	32.4	33.1	32.8	35.4	40.5	50.7	56.6
出向	2.2	0.5	1.8	2.4	2.7	3.1	4.1	6.6	8.8	2.0	0.2
出向復帰	0.6	0.2	0.6	1.1	1.0	1.2	1.4	1.4	1.2	0.4	0.2

資料出所 労働省「雇用動向調査」

(注) 1995～97年平均。

第160表 年齢階級別ハローワークの利用理由

第160表 年齢階級別ハローワークの利用理由

(単位 %)

年齢階級	安定所なら相談 にのってもらえ るから	安定所の求人 の方が信用でき ると思うから	以前から求人シ ート等を見に来 たりして利用し ていた	他の方法でさが したが見つから ないので求職申 込みをした	雇用保険失業給 付の手続きをし たのがきっかけ で	安定所以外にな かった	その他
計	23.8	25.4	9.0	7.1	29.6	2.6	2.5
29歳以下	21.4	27.4	10.4	7.9	27.0	3.1	2.7
30～44歳	23.3	26.3	10.9	8.2	26.0	2.7	2.6
45～54歳	26.8	25.5	8.0	6.6	28.9	2.3	1.8
55歳以上	27.6	19.8	4.2	4.0	40.6	1.6	2.2

資料出所 労働省「求職者総合実態調査」(1993年)

第161表 ハローワークへの要望

第161表 ハローワークへの要望

(単位 %)

性別	時間・回数をかけてじっくり相談にのってほしい	職業上の知識・技能・技術に関する情報をもっと知らせてほしい	求人に関する情報をもっと知らせてほしい	その他
計	33.1	34.1	60.2	9.4
男	35.1	32.9	56.8	10.2
女	31.5	35.0	63.0	8.7

資料出所 労働省「求職者総合実態調査」(1993年)

第162表 障害者の就職経路

第162表 障害者の就職経路

(単位 %)

就職経路	身体障害者	精神薄弱者
公共職業安定所	35.5	37.2
学校・各種学校	10.5	32.0
職業能力開発校	0.8	0.6
社会福祉施設	1.8	10.2
新聞・情報誌等	6.5	0.8
縁故・その他	42.9	16.8
不明、無回答	2.1	2.3

資料出所 日本障害者雇用促進協会「身体障害者等雇用実態調査」(1993年度)

第163表 コーホートでみた勤続年数産業別

第163表 コーホートでみた勤続年数

産業計 (男性、高卒)

(単位 年)

生年	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳
1934-1938年生まれ	3.1	5.3	9.3	11.8	15.1	17.9	20.7	20.2
39- 43	3.1	6.6	9.7	13.0	16.3	19.6	21.8	22.1
44- 48	3.3	6.4	9.8	13.1	16.6	19.4	22.3	
49- 53	3.3	6.8	9.9	13.3	16.2	19.6		
54- 58	3.5	6.5	9.7	12.6	15.7			
59- 63	3.2	6.2	9.0	12.2				
64- 68	3.2	5.9	9.1					
69- 73	3.0	6.1						
74- 78	3.3							

(注) 1934-38年生まれの20~29歳と1939-43年生まれの20~24歳は学歴計

製造業 (生産労働者、男性、高卒以上)

(単位 年)

生年	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳
1934-1938年生まれ	2.7	5.1	8.3	10.6	13.6	16.3	18.8	20.1
39- 43	2.9	6.1	9.8	12.6	15.7	18.1	20.7	22.8
44- 48	3.1	6.1	9.8	12.9	15.4	17.8	21.1	
49- 53	3.5	7.1	10.5	13.3	16.1	19.4		
54- 58	3.6	6.8	9.7	12.4	15.5			
59- 63	3.2	6.3	9.1	12.3				
64- 68	3.3	6.4	9.7					
69- 73	3.2	6.5						
74- 78	3.4							

製造業（管理・事務・技術労働者、男性、高卒） (単位 年)

生年	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳
1934～1938年生まれ	3.4	6.6	9.9	13.2	17.5	21.6	25.3	27.0
39～ 43	3.4	7.1	11.0	15.0	19.2	23.1	26.7	29.6
44～ 48	3.8	7.3	11.3	15.4	19.3	23.1	27.9	
49～ 53	3.6	7.6	11.6	15.8	19.5	24.0		
54～ 58	3.9	7.5	11.1	14.5	18.8			
59～ 63	3.5	6.9	10.2	14.3				
64～ 68	3.6	7.1	10.8					
69～ 73	3.4	7.3						
74～ 78	4.0							

産業計（男性、大卒） (単位 年)

生年	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳
1934～1938年生まれ			7.9	11.7	15.6	19.7	23.1	23.2
39～ 43		4.1	7.9	11.9	16.2	20.4	24.2	24.3
44～ 48	1.3	3.7	7.8	11.9	16.0	19.9	23.6	
49～ 53	1.3	4.1	8.0	11.9	15.9	19.8		
54～ 58	1.2	3.8	7.7	11.4	15.3			
59～ 63	1.3	4.0	7.8	11.7				
64～ 68	1.3	3.9	7.8					
69～ 73	1.3	4.0						
74～ 78	1.2							

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」

第164表 世帯主の年齢別にみた今後の見通し

第164表 世帯主の年齢別にみた今後の見通し

(雇用環境の悪化)

年・期	年齢計	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1996年 I	47.0	30.9	43.5	48.6	46.5	50.0	49.0
II	33.2	25.5	33.5	34.0	32.4	34.8	32.4
III	32.4	23.7	30.8	33.2	31.2	34.9	34.7
IV	38.7	30.8	34.3	39.1	40.0	41.7	37.0
97 I	44.6	41.7	43.4	43.0	43.9	47.8	48.4
II	39.7	34.8	38.6	41.1	38.0	42.6	38.6
III	42.7	31.6	37.6	42.0	46.4	45.3	42.6
IV	76.0	65.0	72.6	78.1	77.4	77.6	73.9
98 I	72.9	55.4	65.0	74.3	75.6	77.6	73.5
II	75.8	68.9	72.8	75.3	78.4	76.8	74.8
III	79.9	71.4	75.1	81.3	82.8	81.4	76.0
IV	74.4	65.4	73.3	77.5	74.7	74.4	71.4

(注) 今後半年間で雇用環境が「悪化する」または「やや悪化する」と答えた者の割合。

(暮らし向きの悪化)

年・期	年齢計	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1996年 I	21.2	21.4	22.0	26.0	18.3	20.5	16.1
II	17.5	26.7	17.2	18.5	17.5	16.2	14.2
III	18.5	15.6	17.8	19.9	18.6	16.8	18.8
IV	24.7	19.0	23.3	25.2	25.1	25.4	24.5
97 I	37.8	41.2	40.0	38.5	35.3	38.8	36.2
II	27.2	20.1	23.4	30.4	25.0	29.8	28.8
III	26.4	13.2	26.5	26.9	25.1	27.5	31.6
IV	38.8	22.6	33.4	45.0	40.0	38.4	37.0
98 I	34.6	25.9	29.8	39.2	35.3	34.5	32.7
II	34.4	24.5	32.5	38.3	35.7	34.3	28.3
III	36.3	30.8	34.9	39.7	38.0	35.9	28.8
IV	38.5	34.5	39.5	41.8	40.1	37.9	27.1

(注) 今後半年間で暮らし向きが「悪化する」または「やや悪化する」と答えた者の割合。

資料出所 経済企画庁「消費動向調査」

第165表 アメリカの勤続10年以上の労働者の割合(1998年)

第165表 アメリカの勤続10年以上の労働者の割合 (1998年)

(単位 %)

性	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳
男性	3.1	15.3	29.7	39.1	47.4	52.8	56.5	55.7
女性	2.2	14.0	24.0	31.8	38.4	44.6	49.2	53.0

資料出所 アメリカ労働省資料

第166表 45歳以上の中高年齢層に対する教育施策

第166表 45歳以上の中高年齢層に対する教育施策

(単位 %)

教育施策	管理職の 45歳以上の者	事務系一般職 ・監督職の 45歳以上の者	技能系一般職 ・監督職の 45歳以上の者
グループ内の企業出向によるマネジメント教育	17.6	8.7	6.1
グループ外の企業出向によるマネジメント教育	4.2	1.7	0.8
大学や大学院留学によるリフレッシュ教育	0.4	0.6	0.0
海外派遣など、海外現地での教育	5.3	2.3	2.5
社内のマネジメントスクールでの徹底教育	6.3	3.8	3.0
長期教育休暇による自主的な勉強	2.3	2.3	1.5
自営独立、開業希望者の援助	3.6	3.0	3.0
趣味やボランティア活動への援助による 定年後へのソフトランディング指導	5.5	6.1	6.5
社内研修の講師を積極的に担当させる	16.5	7.0	9.9
現業務の改善に関する徹底研究の指導	8.9	9.9	8.7
民間の社外研修の講師として派遣	1.9	0.6	0.4
研修機関のセミナーなどへの派遣	20.5	15.7	13.7
健康管理に重点をおいた教育	7.6	8.0	9.1
管理職定年社内再配置 (定年まで)	16.1	8.7	6.5
公的資格の取得奨励援助	22.6	25.6	22.8
再就職に狙いをおいた講習への参加	3.6	3.2	2.1
新職種、新業務、新部署への転換による刺激	13.3	13.3	9.3
現場第一線をもう一度経験させる	2.8	3.0	3.8
通信教育の受講	30.7	31.7	27.7
その他	7.8	8.5	8.9

資料出所 日本経営者団体連盟、(社)日本産業訓練協会「産業訓練実態調査」(1995年)

(注) 対象ごとに、実施しているものすべてについて回答。